

黒潮

和歌山県看護協会 会報

平成23年5月発行

第115号

発行所

和歌山県看護協会

〒641-0036

和歌山市西浜1014-27

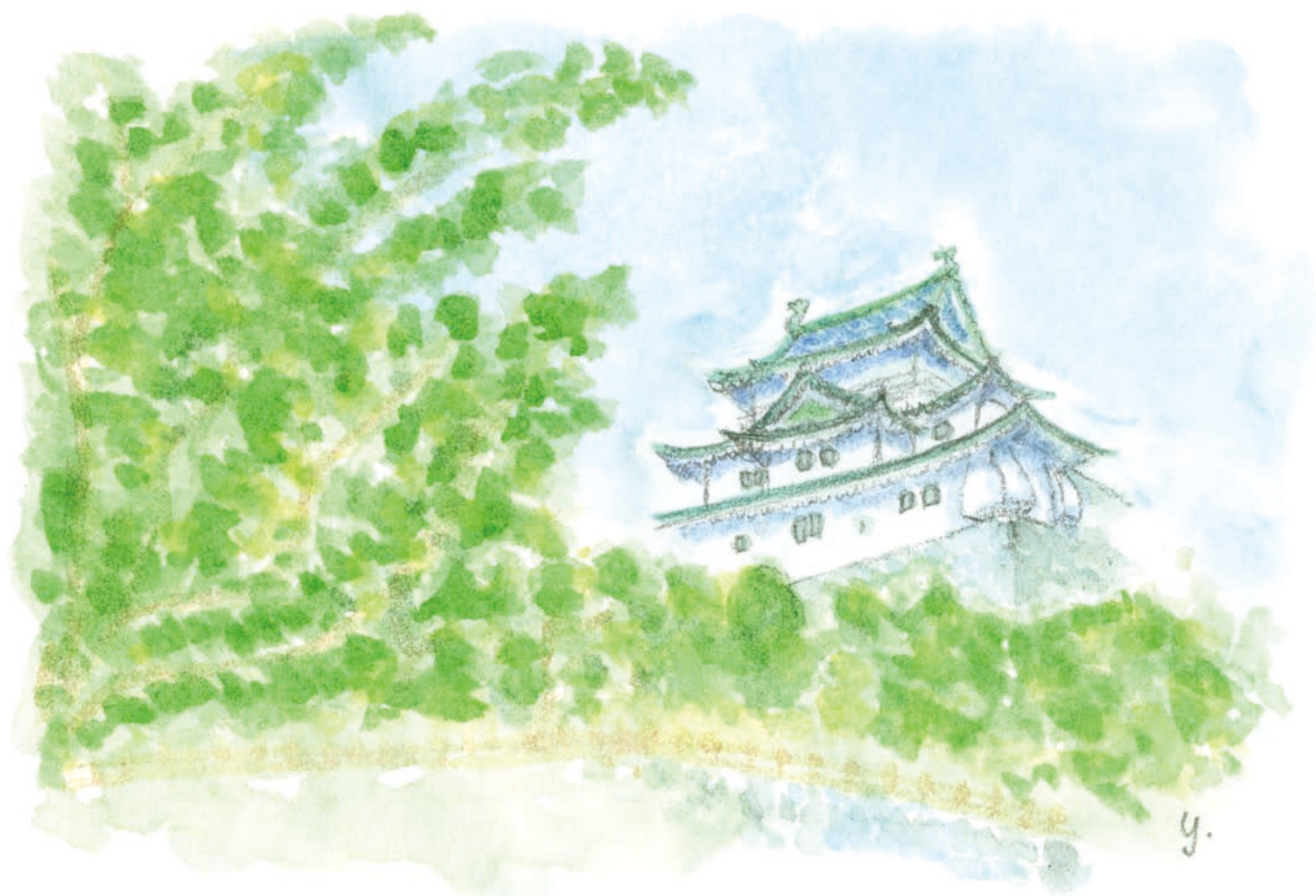
TEL:073-446-0605

FAX:073-446-0899

<http://www.wakayama-kangokyokai.or.jp>

発行人

木村 佐多子



新緑の和歌山城 絵：広報委員

CONTENTS

- | | |
|----------------------|----------------------------|
| • 通常総会開催に向けて …………… 2 | • 助産師のコーナー …………… 19 |
| • 平成 23 年度 通常総会プログラム | • 看護師のコーナー …………… 19 |
| 理事会報告 …………… 3 | • 認定看護師のコーナー |
| 第一号議案～第九号議案 …………… 4 | (トピックス 2011) …………… 20 |
| 第十号議案 …………… 6 | • セカンドレベル研修を終えて …………… 21 |
| 第十一号議案 …………… 7 | • 災害支援ナースの活動を経験して …………… 21 |
| 職能委員会報告 …………… 8 | • リレーエッセイ 友達の輪 …………… 21 |
| 常任委員会報告 …………… 9 | • MY SCHOOL …………… 22 |
| 特別委員会報告 …………… 11 | • 私の○○ …………… 22 |
| おめでとうございます …………… 14 | • やさしい倫理だより …………… 23 |
| 地区支部報告 …………… 15 | • プレゼント …………… 23 |
| • 保健師のコーナー …………… 19 | • 和歌山県看護協会の動き …………… 24 |

和歌山県看護協会 会員数

平成 23 年 5 月 20 日現在

会員総数	4,963 名
名誉会員	1 名
保健師	122 名
助産師	177 名
看護師	4,293 名
准看護師	370 名

平成 23 年度通常総会開催に向けて

社団法人和歌山県看護協会

会 長 木 村 佐 多 子



木々の若葉が一斉に芽吹き新緑が目にも眩しい季節となりました。

東日本大震災で被災されました方々に対しましては、心からお見舞いを申し上げます。また、会員の皆様方には、義援金や災害支援ナース派遣に際しまして多大なるご協力を頂き、誠にありがとうございます。

平成 22 年度事業も順調に進み無事終了致しました。ひとえに、会員の皆様の熱心なご支援・ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。今年度の通常総会は、6月11日、県立医科大学講堂で開催致します。多くの会員の皆様のご参集のもと、活発で建設的なご意見を頂けるよう宜しくお願い申し上げます。

今年度は、「看護の専門性を強化・結集し、多様化する社会の期待に応えます。」をスローガン（案）に、①社会変化に即応した継続教育の推進と看護職のキャリア開発への支援 ②社会の要請に対応した三職能の専門性の強化と連携 ③看護職の確保・定着に向けた事業推進 ④安全で安心な療養生活を支える訪問看護の質の向上 ⑤看護職能団体としての組織力の強化 ⑥新公益法人移行への体制づくりを重点事業（案）に掲げ、これらに沿って事業計画を策定致しました。

この総会では、通常の協会事業計画等に加えて、公益社団法人移行に関する議案を決議して頂きます。公益法人制度の改正に伴い、平成 25 年 11 月末迄に「一般社団法人」または「公益社団法人」いずれかの選択を求められています。本協会は協会の目的と事業の公益性、社会の信頼性から鑑みて、「公益社団法人」を選択する方向で、移行プロジェクトチームを立ち上げ、日本看護協会の支援のもと、骨子や基本理念、定款等について協議を重ねてきました。会員の皆様には黒潮やHPを通じて情報を公開し、ご意見を求めてきたところです。更に、看護研修センター建設に関する議案も提出させていただきます。平

成 21 年度の総会で北赤坂台取得断念の議決を頂き、同時に南赤坂台・

海南インテリジェントパーク内のトランスコスモス施設をご紹介致しました。その後、この2年間、研修や施設代表者会、理事会等で利用してアンケート調査を実施し、HP で公開して参りました。現在の会館は昭和 63 年に建築され当時の会員数と比較しても、現在倍以上に増加し教育機関として手狭なことは明白で、活動拠点として将来展望が開けるような教育機関の実現を目指して、会員各位のご理解を頂いた上で決議して頂きたいと願っております。

看護職の確保・定着事業推進に関しましては、県受託事業の「潜在看護職復職等支援」は勿論、ワーク・ライフ・バランス推進に向けて、日本看護協会と連携し、ワークショップの開催を計画しており、看護職が働き続けることのできる環境づくりへの支援ができると考えます。

また、昨年4月の改正「保助看法」の施行で、新人看護職員卒後研修が国の責務において予算化され、本県でも 21 医療施設で活用されました。23 年度は、新人看護師に加え新人助産師・新人保健師や教育担当者や実地指導者も対象となります。多くの施設が活用し、新人の離職防止、看護の質向上に繋げて下さることを願っています。本協会でも新人看護職員研修責任者教育を実施し、23 年度も開催予定しています。

医療がますます高度化・専門分化する中、看護職には保健医療福祉全ての分野での活躍が期待されており、取り組むべき課題は山積しています。県看護協会として、看護の質向上を図ると共に、看護職員全てが、看護職であることに誇りとやりがいを持って、いきいきと働き続けることのできる環境の整備に、役職員一丸となって取り組んで参りますので、今後も会員の皆様のご支援・ご協力宜しくお願い申し上げます。

平成 23 年度 和歌山県看護協会

● 日 程：平成 23 年 6 月 11 日（土）

- 12：20 開 場
- 12：50 オリエンテーション
- 13：00 開 会
 - 物故会員への黙祷
 - 会長挨拶
 - 来賓祝辞
 - 祝電披露
 - 和歌山県看護協会会長表彰
- (休 憩)
- 13：50 議長団選出
 - 議事録署名人選出
 - 平成 22 年度総会議事録朗読
- 14：00 報告事項
 - 日本看護協会代議員報告
 - 理事会報告

通常総会プログラム

● 場 所：和歌山県立医科大学 講堂

- 職能委員会報告
- 常任委員会・特別委員会報告
- 地区支部報告
- 議決事項
 - （第一号議案～第十一号議案）
- 16：00 選 挙（役員改選）
 - 選挙管理委員会任命
 - 新役員紹介
 - 旧役員への謝辞
 - 旧役員代表者挨拶
 - 綱領宣言
 - 看護協会歌合唱
- 16：30 閉 会
 - * 進行上の都合により、時間が変更する場合があります。

理 事 会 報 告

I 理事会等開催状況

1. 常務理事会

回	開 催 日	時 間	出 席 者
			常務理事
1	平成 22 年 4 月 27 日	10:00～12:30	8
2	平成 22 年 6 月 18 日	13:00～16:30	9
3	平成 22 年 8 月 6 日	10:00～12:30	9
4	平成 22 年 11 月 9 日	10:00～12:30	9
5	平成 23 年 2 月 2 日	13:30～17:00	9
6	平成 23 年 3 月 2 日	10:00～12:30	8

2. 理事会

回	開 催 日	時 間	出 席 者			
			常務理事	理事	監事	事務局
1	平成 22 年 4 月 27 日	15:00～17:00	8	5	2	2
2	平成 22 年 6 月 2 日	16:00～17:00	7	8	2	2
3	平成 22 年 7 月 8 日	10:00～12:10	8	9	1	2
4	平成 22 年 8 月 6 日	13:30～17:00	9	8	1	2
5	平成 22 年 11 月 9 日	13:30～17:00	9	8	1	2
臨時	平成 23 年 1 月 20 日	13:30～16:20	9	8	1	2
6	平成 23 年 3 月 2 日	13:30～17:00	8	8	2	2

3. 理事・各委員長・地区支部長合同運営会議

回	開 催 日	時 間	出 席 者				
			常務理事	理事	監事	委員長	事務局
1	平成 22 年 4 月 27 日	13:30～15:00	8	5	2	13	2
2	平成 22 年 7 月 8 日	13:30～15:20	8	8	1	13	2

4. 代議員会開催状況

回	開 催 日	出 席 者
		代 議 員
1	平成 23 年 6 月 2 日	20

II 理事会の主な協議事項

第 1 回理事会 平成 22 年 4 月 27 日（火）15:00～17:00

【審議事項】

- 平成 22 年度事業実施（案）について
- 平成 22 年度決算（案）と監査報告について
- 平成 23 年度日本看護協会代議員及び予備代議員選出について

【報告事項】

- 平成 22 年度第 1 回法人会報告
- 平成 22 年度県委託事業について
- 県看護協会に対する提案要望事項について
- 事務局の体制について

第 2 回理事会 平成 22 年 6 月 2 日（水）15:30～16:20

【審議事項】

- 平成 22 年度通常総会に向けての最終確認
- 施設代表者会議開催に関すること
- 専務理事推薦について

【報告事項】

- 平成 22 年度新人オリエンテーションについて
- 関連団体会議等出席報告
- その他① AED 購入について ②骨密度購入について

第 3 回理事会 平成 22 年 7 月 8 日（金）10:00～12:30

【確認及び審議事項】

- 新役員・理事の紹介

- 定款及び組織機能図について
- 平成 22 年度和歌山県看護協会通常総会に基づく事業実施について
- 円滑な事業運営（理事会・合同会議等の年間計画）について
- 常任委員会・特別委員会への諮問事項について
- 公益法人制度改革に向けた準備について
- 平成 22 年度地区支部活動及び助成金について
- 平成 22 年度本協会・県協会の運営に関する提案・要望について

【報告事項】

- 県ナース賞推薦候補者について
- 平成 22 年度地区支部活動と助成金について
- 関連団体会議等出席報告

第 4 回理事会 平成 22 年 8 月 6 日（金）13:30～17:00

【審議事項】

- 日本看護協会運営並びに事業に関する提案・要望について
- 公益法人制度改革に向けて（骨子・基本理念）
- 新看護研修センター基本方針（案）について
- その他

【報告事項】

- 平成 22 年度第 2 回法人会報告
- 都道府県職能委員長会報告
- 日本看護協会他関連団体会議等出席報告
- 8 月現在の会員数について

第 5 回理事会 平成 22 年 11 月 9 日（火）13:30～17:00

【審議事項】

- 特定看護師（仮称）について
- ナースセンター事業について
- 平成 23 年度事業計画への提案・要望について
- 新看護研修センター建設推進について
- 新公益法人移行に向けての進捗状況及び課題
- その他

【報告事項】

- 平成 22 年度地区別法人会報告
- 平成 22 年度地区別職能委員会報告
- 平成 22 年度中間監査報告及び事業経過報告
- 平成 22 年度県ナース賞受賞者について
- その他

臨時理事会 平成 23 年 1 月 20 日（月）13:30～16:20

【審議事項】

- 新公益法人への移行について
 - 新たな社団法人の骨子案
 - 新事業区分（案）について
 - 新定款案について
 - 今後の取り組みのスケジュールについて
- 和歌山県地域医療再生臨時特例交付金について

第 6 回理事会 平成 23 年 3 月 2 日（水）13:30～17:00

【審議事項】

- 平成 23 年度事業計画（案）について
 - スローガン（案）
 - 重点事業（案）と事業計画（案）
- 平成 23 年度一般会計予算（案）について
- 公益法人移行関連議案について
- 新看護研修センター建設推進について

【報告事項】

- 平成 22 年度第 2 回審議員会報告
- 法人会報告
- 平成 22 年度第 2 回都道府県職能委員長会報告
- 平成 23 年度県看護協会長表彰推薦について
- 関連団体会議等出席報告

- 第一号議案 名誉会員の推薦
- 第二号議案 平成 22 年度事業報告（案）
- 第三号議案 平成 22 年度決算報告（案）並びに監査報告（案）
- 第四号議案 新たな社団法人への移行について（案）
- 第五号議案 新たな社団法人和歌山県看護協会基本理念（案）
- 第六号議案 和歌山県看護協会の新定款について（案）
- 第七号議案 公益社団法人移行後の理事及び監事の報酬等の上限（案）

第八号議案 **平成 23 年度 和歌山県看護協会のスローガン（案）**

「看護の専門性を強化・結集し、多様化する社会の期待に応えます。」

第九号議案 **平成 23 年度重点事業（案）並びに事業計画（案）**

重点事業（案）

- 社会変化に即応した継続教育の推進と看護職のキャリア開発への支援
- 社会の要請に対応した三職能の専門性の強化と連携
 - 保健師の専門性を発揮するための活動基盤強化とネットワークの構築
 - 助産師による安全で安心な出産環境提供体制の推進
 - 医療・看護提供の場の変化に対応した安全で質の高い看護の提供
- 看護職の確保・定着に向けた事業推進
 - ワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ
 - 潜在看護職員復職等支援事業
 - 看護職の卒後臨床研修事業の推進
- 安全で安心な療養生活を支える訪問看護の質の向上
- 看護職能団体としての組織力の強化
- 新公益法人移行への体制づくり

事業項目	事業内容		事業項目	事業内容	
1 看護教育及び学会等学術振興に関する事業	1. 継続教育に関する事業	HP に掲載	3. 看護研究	1) 和歌山県看護研究学会の開催	・平成 24 年 2 月 25 日（土） 開催予定
	1) 教育計画の企画・実施	①新人教育 5 コース		2) 近畿地区看護研究学会への協力	
	(1)平成 23 年度教育計画の実施・評価	②看護実践能力開発のための教育 21 コース		3) 平成 24 年度近畿地区看護研究学会開催の準備	近畿地区看護研究学会開催委員会の設置と運営（年 8 回）
	(2)平成 24 年度教育計画の企画・広報	③フットケア実務者研修 1 コース		4) 図書の整備・充実と活用支援	図書・雑誌等の購入
2. 認定看護管理者教育	(1)認定看護管理者教育	④管理者のための教育 6 コース	5) 看護研究学会委員会		・年 11 回
	(2)認定看護管理者教育課程運営委員会	・年 8 回			
	(3)ファーストレベル研修実行委員会				
	(4)セカンドレベル研修実行委員会				
3) 和歌山県からの委託事業	(1)資質の向上	HP に掲載	1. 労働環境等の改善のための事業	1) ナースセンター事業	①ナースバンク事業、ナースセンター便り（年 4 回）
	(2)実習指導者講習会	①ファーストレベル教育課程（1 コース 40 名）		(1)就業促進事業	②多様な勤務形態導入研修事業 WLB 推進ワークショップの実施 ・8/10（水）8/11（木）H.24.1/12（木）
	(3)訪問看護職員研修	②セカンドレベル教育課程（1 コース 30 名）		(2)離職防止対策事業	①ナース相談窓口 ②リフレッシュ研修（新卒者・中堅看護職員各 1 日）
		・年 4 回		(3)「看護の心」普及啓発	①1 日看護体験
2. 医療安全に関する事業	1) 医療安全管理者研修の実施	①相互研修（医療機関で働く看護師・3 日間）	(4)潜在看護職員の復職支援事業		②潜在看護職員登録システムの充実と職場復帰支援
		②訪問看護管理者研修（3 日間）			③再就業希望看護職員に対する臨床実務研修（10 日間）
					④看護職員離職者実態調査
2. 医療安全に関する事業	1) 医療安全管理者研修の実施	①医療安全管理者養成研修・定員 50 名・7 日間	2. 災害時の看護支援活動	1) 災害支援ナースの育成	①災害医療と看護～基礎編～（衛星放送受信）
				2) 災害支援ナースの登録ネットワークシステムの構築	②災害看護Ⅱ
				3) 災害看護対策委員会	年 6 回（災害マニュアルの作成等）
				4) 県行政との連携	・日本看護協会との合同防災訓練
2. 医療安全に関する事業	1) 医療安全管理者研修の実施	①医療安全管理者養成研修・定員 50 名・7 日間	3. 政策への参加		①行政機関の委員および協議会等の参画
					②行政への要望・意見交換

事業項目	事業内容		事業項目	事業内容	
3 看護に係る調査及び研究並びに看護業務及び看護制度の改善等に関する事業	1. 保健師の連携強化・ネットワークの構築 1) 保健師職能委員会	・年6回 ・職能集会 平成23年9月3日(土) テーマ:「対応困難と感じた方への対応について」 ・「保健師職能委員会だより」発行(年3回)	6 その他 本会の目的達成のために必要な事業	1. 組織強化に関する事項 1) 会員数の増加・拡大	①入会案内等のパンフレット作成 ②ホームページの充実 ③新入会員オリエンテーション ④「保健師職能だより」発行(年3回)
	2) 保健師の人材育成	・「保健指導ミーティング事業」の取り組み		2) 地区支部との連携及び支援	①施設会員代表者会議 年2回 ・合同研修会1回 ・地区支部単位1回
	2. 助産師外来・院内助産院の普及と質向上の推進 1) 助産師職能委員会	・年6回 ・職能集会 平成23年9月3日(土) テーマ:「グリーンケア」 ・小学校・中学校への出前教室 ・研修会の実施		3) 三職能合同研修会	平成23年9月3日(土) テーマ「乳がん看護:不安な気持ちを支えたい」
4 地域ケアサービスの推進に関する事業	2) 助産師に人材育成	・年6回 ・職能集会 平成23年9月3日(土) テーマ:「グリーフケア」 ・小学校・中学校への出前教室 ・研修会の実施	5 その他 本会の目的達成のために必要な事業	4) 会員サービスの充実	①ホームページ等での情報提供 ②会員からの問い合わせ・相談対応 ③看護職員賠償責任保険の普及 ④会員の福利厚生(表彰・慶弔見舞・災害見舞等)
	3. 看護専門職としての能力開発 1) 看護師職能委員会	・年6回 ・職能集会 平成23年9月3日(土) テーマ:「病院から地域へつなぐ看護を考える」 ・黒潮に「やさしい倫理だより」の掲載 ・准看護師への進学支援 ・専門看護師・認定看護師交流会への支援		5) 新看護研修センター建設に関する検討	①建設に関する具体的検討と情報の提供 ②看護研修センター建設推進委員会
	4. 医療安全の推進 1) 医療安全管理者研修修了者の支援・連携 2) 医療安全に関する相談対応・情報提供 3) 医療安全対策委員会	・和歌山県リスクマネージャー交流会・研修会 ①「医療安全なつとわーく」を「黒潮」に掲載 ②HPに情報提供 ③看護職賠償責任保険の普及 ・年8回開催		2. 円滑な組織運営 1) 諸会議の開催	①総会 H.23.6.11 (県立医科大学講堂) ②常務理事会 (年6回) ③理事会 (年6回) ④理事・各委員長合同会議(年2回) ⑤代議員会 (年1回) ⑥監査 (年2回) ⑦各委員会 ・職能委員(委員長)会、常任委員会、特別委員会
5 日本看護協会との連携及び日本看護協会との協力	1. 「まちの保健室」事業	①まちの保健室 ②一日まちの保健室 ③老人看護月間行事	6 その他 本会の目的達成のために必要な事業	2) 新公益法人移行への体制作り及び改訂等	①定款、細則等諸規定の見直し及び改訂等 ②公益法人の申請
	2. 看護週間事業	①ふれあい看護体験事業		3) 広報	①和歌山県看護協会会報「黒潮」の発行 ②ホームページの充実
	3. 訪問看護推進事業	①訪問看護推進協議会開催 ②相互研修(医療機関で働く看護師・3日間) ③訪問看護管理者研修(3日間)		4) 事務局運営体制強化及び充実	
6 その他 本会の目的達成のために必要な事業	1. 日本看護協会との連携 1) 日本看護協会主催の会議	①通常総会・全国職能別交流集会 ②理事会 ③法人会員会 ④地区別法人会員会・都道府県職能委員長会 ⑤各担当会議	7 その他 本会の目的達成のために必要な事業	3. 関係団体共同事業参加	①関係機関の委員および協議会への参画 ②後援・協賛依頼への協力 ③看護職員の派遣
	2) 日本看護協会との協働事業	・保健師の活動推進と政策提言事業			

第十号議案

平成23年度一般会計収支予算書（案）

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

△印は前年度予算より減（単位 円）

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
1) 特定資産運用収入	30,000	30,000	0	
(1) 特定資産利息収入	30,000	30,000	0	
2) 会費収入	53,500,000	54,000,000	△ 500,000	見込会員数 5,350 人 × 10,000 円
(1) 会費収入	53,500,000	54,000,000	△ 500,000	
3) 建設資金準備積立金収入	16,050,000	16,200,000	△ 150,000	
(1) 建設資金準備積立金収入	16,050,000	16,200,000	△ 150,000	積立金見込収入 5,350 人 × 3,000 円
4) 入会金収入	5,700,000	5,500,000	200,000	
(1) 入会金収入	5,700,000	5,500,000	200,000	新規入会者・再加入者 570 人 × 10,000 円
5) 事業収入	24,124,000	25,442,000	△ 1,318,000	
(1) 受講料等収入	22,194,000	23,472,000	△ 1,278,000	1. 会員研修 22 コース 6,688,000 2. 看護研究学会 1,500,000 3. 認定看護管理者（ファーストレベル）教育 5,840,000 4. 認定看護管理者（セカンドレベル）教育 5,616,000 5. 准看護師研修 0 6. 医療安全研修受講料収入 2,070,000 7. 災害看護研修受講料 480,000
(2) 会館賃借料収入	410,000	410,000	0	看護連盟室料他
(3) 福祉年金事務費収入	360,000	360,000	0	福祉年金事務手数料
(4) 受取手数料収入	800,000	800,000	0	手数料
(5) 業務受託料収入	360,000	400,000	△ 40,000	衛星通信研修運営協力金 4 コース
6) 補助金等収入	31,589,000	31,913,000	△ 324,000	
(1) 日本看護協会助成金収入	7,968,000	7,833,000	135,000	1. 協会運営助成 0 2. 看護の普及啓発事業費 100,000 3. 会員教育助成 0 4. 会員教育専任者雇上助成 0 5. 訪問看護教育専任者雇上助成 0 6. 教育事業助成 750 万 + (70 円 × 5,249 名分)
(2) 日本看護協会業務委託費収入	642,000	274,000	368,000	1. 会員登録事務業務委託費収入 300,000 + (65 円 × 5,249 名分)
(3) 団体助成金収入	100,000	100,000	0	1. 県病院協会助成金収入 100,000 2. まちの保健室助成金収入 0
(4) 県ナースセンター委託費収入	8,680,000	8,725,000	△ 45,000	県医務課委託費
(5) 潜在看護職員復帰等支援委託事業費収入	11,000,000	10,650,000	350,000	県医務課委託費
(6) 新人看護職員研修委託事業費収入	468,000	700,000	△ 232,000	県医務課委託費
(7) 実習指導者講習会委託事業費収入	2,731,000	2,731,000	0	県医務課委託費
(8) 推進員養成研修委託事業費収入	0	900,000	△ 900,000	県長寿社会推進課委託費
7) 寄付金収入	10,000	10,000	0	
8) 雑収入	2,180,000	1,340,000	840,000	
(1) 受取利息	10,000	10,000	0	
(2) その他の雑収入	2,170,000	1,330,000	840,000	1. 受取資料代 2,040,000 2. その他 130,000
事業活動収入計	133,183,000	134,435,000	△ 1,252,000	

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
2. 事業活動支出				
1) 事業費支出	70,930,000	65,569,000	5,361,000	
(1) 人件費支出	14,000,000	9,700,000	4,300,000	
①給料手当支出	11,700,000	8,400,000	3,300,000	職員7人×1万
②賃金支出	300,000	300,000	0	
③福利厚生費支出	2,000,000	1,000,000	1,000,000	社会保険料, 雇用保険料
(2) 会議費支出	8,160,000	7,910,000	250,000	
①日本看護協会総会参加費支出	800,000	500,000	300,000	
②代議員会費支出	100,000	100,000	0	
③総会費支出	1,450,000	1,450,000	0	
④職能集会費支出	500,000	500,000	0	1. 保健師職能集会費 150,000 2. 助産師職能集会費 150,000 3. 看護師職能集会費 200,000
⑤理事会費支出	630,000	630,000	0	
⑥合同運営会議費支出	250,000	300,000	△ 50,000	1. 合同運営会議費 150,000 2. 地区別施設代表者会費 100,000
⑦職能委員会費支出	1,300,000	1,300,000	0	1. 保健師職能委員会費 400,000 2. 助産師職能委員会費 400,000 3. 看護師職能委員会費 500,000
⑧常任委員会費支出	1,530,000	1,530,000	0	1. 社会経済福祉委員会費 200,000 2. 教育委員会費 500,000 3. 広報委員会費 200,000 4. 準備委員会費 80,000 5. 推薦委員会費 150,000 6. 業務委員会費 200,000 7. 看護研究学会委員会費 200,000
⑨特別委員会費支出	1,600,000	1,600,000	0	1. 認定看護管理者制度教育運営委員会費 200,000 2. ファーストレベル教育実行委員会費 200,000 3. セカンドレベル教育実行委員会費 200,000 4. 在宅看護推進委員会費 150,000 5. 看護研修センター建設推進委員会費 150,000 6. まちの保健室運営委員会費 200,000 7. 医療安全対策委員会費 200,000 8. 災害看護対策委員会費 150,000 9. 近畿地区看護研究学会委員会費 150,000
(3) 需用費支出	3,700,000	3,800,000	△ 100,000	
①旅費交通費支出	800,000	800,000	0	
②通信運搬費支出	1,200,000	1,200,000	0	
③印刷製本費支出	1,000,000	1,000,000	0	印刷機、製本機リース料 他
④調査研究費支出	200,000	300,000	△ 100,000	アンケート 他
⑤図書整備費支出	500,000	500,000	0	図書整理人件費 他
(4) 会員厚生費支出	411,000	411,000	0	会員慶弔, 受章祝 他
(5) 教育費支出	14,270,000	13,560,000	710,000	
①会員研修費支出	4,682,000	4,200,000	482,000	
②認定看護管理者研修費支出	8,088,000	7,560,000	528,000	ファーストレベル研修費 4,088,000 セカンドレベル研修費 4,000,000
③准看護師研修会費支出	0	300,000	△ 300,000	
④看護研究学会費支出	1,500,000	1,500,000	0	
(6) 「まちの保健室」運営費支出	600,000	600,000	0	

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
(7) 広報活動費支出	2,200,000	2,000,000	200,000	1. 広報費 1,900,000 2. 啓発費 300,000
(8) 組織強化費支出	2,900,000	2,520,000	380,000	1. 地区支部助成費 2,000,000 2. 新入会員オリエンテーション 300,000 3. 施設代表者会 300,000 4. 職能合同研修費 300,000
(9) 看護支援対策事業費支出	1,800,000	1,362,000	438,000	①災害看護支援対策費支出 600,000 ②医療安全対策費支出 1,200,000
(10) ナースセンター委託事業費支出	8,680,000	8,725,000	△ 45,000	県医師課委託費 1. 再就業促進事業費 1,565,000 2. ふれあい看護体験費 134,000 3. 訪問看護推進事業費 657,000 4. 中堅看護職員実務研修事業費 594,000 5. 多様な勤務形態導入研修事業費 402,000 6. 人件費 5,328,000
(11) 実習指導者講習会委託費支出	2,731,000	2,731,000	0	県医師課委託費
(12) 推進員養成研修委託費支出	0	900,000	△ 900,000	県長寿社会推進課委託費
(13) 潜在看護職員復帰支援等事業費支出	11,000,000	10,650,000	350,000	県医師課委託費
(14) 新人看護職員研修事業費支出	468,000	700,000	△ 232,000	県医師課委託費
(15) 寄付金支出	10,000	10,000	0	
2) 管理費支出	50,025,000	57,201,000	△ 7,176,000	
(1) 人件費支出	23,964,000	33,740,000	△ 9,776,000	役員 ①役員報酬支出 9,080,000 ②給料手当支出 11,300,000 ③賞金支出 100,000 ④退職金給付支出 484,000 ⑤福利厚生費支出 3,000,000
①役員報酬支出	9,080,000	10,500,000	△ 1,420,000	職員アルバイト ②給料手当支出 11,300,000 ③賞金支出 100,000 ④退職金給付支出 484,000 ⑤福利厚生費支出 3,000,000
②給料手当支出	11,300,000	12,500,000	△ 1,200,000	社会保険料・雇用保険料 他
③賞金支出	100,000	100,000	0	
④退職金給付支出	484,000	7,640,000	△ 7,156,000	
⑤福利厚生費支出	3,000,000	3,000,000	0	
(2) 需用費支出	18,706,000	17,106,000	1,600,000	
①会議費支出	200,000	300,000	△ 100,000	
②渉外費支出	600,000	600,000	0	
③旅費交通費支出	500,000	500,000	0	
④通信運搬費支出	700,000	500,000	200,000	
⑤賃借料支出	1,756,000	1,756,000	0	システム機器等リース料 他
⑥借上物件賃借料支出	2,400,000	2,400,000	0	駐車場借上代
⑦消耗什器備品費支出	1,500,000	1,000,000	500,000	
⑧消耗品費支出	600,000	600,000	0	事務用品・消耗品 他
⑨印刷製本費支出	1,500,000	1,500,000	0	コピー代・リース料 他
⑩光熱水料費支出	1,750,000	1,750,000	0	電気・ガス・水道
⑪諸謝金支出	2,500,000	1,500,000	1,000,000	税理士報酬・公益法人化諸経費 他
⑫租税公課支出	3,500,000	3,500,000	0	固定資産税・法人税・県・市民税・消費税 他
⑬災害保険料支出	400,000	400,000	0	
⑭雑支出	800,000	800,000	0	

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
(3) 情報処理費支出	2,000,000	2,000,000	0	ホームページ関連費 他
(4) 営繕費支出	3,000,000	2,000,000	1,000,000	
①修繕費支出	2,000,000	1,000,000	1,000,000	
②保守料支出	1,000,000	1,000,000	0	システム機器等保守料
(5) 会館委託費支出	2,355,000	2,355,000	0	1. 警備委託料 450,000 2. マット取替 90,000 3. 電気工作物点検 150,000 4. 浄化槽維持管理 430,000 5. 自動扉保守点検 85,000 6. 防火設備保守点検 100,000 7. 館内清掃 1,050,000
事業活動支出計	120,955,000	122,780,000	△ 1,825,000	
事業活動収支差額	12,228,000	11,655,000	573,000	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入				
1) 特定資金取崩収入	1,424,000	8,632,000	△ 7,208,000	
(1) 退職給付引当資産取崩収入	424,000	7,632,000	△ 7,208,000	
(2) 施設整備積立引当資産取崩収入	1,000,000	1,000,000	0	
投資活動収入計	1,424,000	8,632,000	△ 7,208,000	
2. 投資活動支出				
1) 特定資産取得支出	44,539,000	37,358,000	7,181,000	
(1) 退職給付引当資産支出	1,455,000	1,688,000	△ 233,000	
(2) 減価償却引当資産支出	3,634,000	3,170,000	464,000	
(3) 施設整備積立引当資産支出	16,400,000	16,300,000	100,000	
(4) 建設資金準備積立引当資産支出	23,050,000	16,200,000	6,850,000	
2) 固定資産取得支出	1,000,000	1,000,000	0	
(1) 什器備品等購入支出	1,000,000	1,000,000	0	
投資活動支出計	45,539,000	38,358,000	7,181,000	
投資活動収支差額	△ 44,115,000	△ 29,726,000	△ 14,389,000	
Ⅲ 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
財務活動収入計	0	0	0	
2. 財務活動支出				
財務活動支出計	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
Ⅳ 予備費支出				
当期収支差額	△ 34,887,000	△ 21,071,000	△ 13,816,000	
前期繰越収支差額	40,919,871	41,252,000	△ 332,129	千円未満切捨
次期繰越収支差額	6,032,871	20,181,000	△ 14,148,129	

(注)
1. 借入金限度額 0 円
2. 債務負担金 0 円

第十一号議案

新看護研修センター建設取り組みについて（案）

トランスコスモス（株）海南テクノロジーセンター（健康保険組合研修施設）の購入について（案）

職 能 委 員 会 報 告

保 健 師 職 能 委 員 会

委員長 高 垣 通 代

【活動目標】 保健師の専門性を発揮していきいきと活動する

【活動内容】

○回 数：8回

○職能集会：参加者数 45 名

講演「和歌山県における新型インフルエンザ対策の取り組みと今後の課題」

講師：和歌山県福祉保健部健康局 局長 雑賀 博子氏

報告「保健師の活動基盤に関する基礎調査」結果について

田辺保健所：西岡 倫代氏

○三職能合同研修会

テーマ：これでよかったか？！新型インフルエンザ対策

～発生時の対応と関係機関との連携～

講演「国内初の新型インフルエンザ患者発生から病院感染管理職・
神戸市健康危機管理対策会議として提言したいこと」

講師：神戸市立医療センター中央市民病院

小児科・感染症科・感染管理室：春田 恒和 先生

○日本看護協会と協働

①厚生労働省平成 22 年度先駆的保健活動交流推進事業

「保健師の活動基盤に関する基礎調査」(社)日本看護協会実施

目的：平成 21 年度の調査内容を踏まえ、より詳細な保健師活動
領域や業務内容、育成環境、労働条件や状況、現任教育体
制、現状認識等について調査。

期間：平成 22 年 9 月 9 日～平成 22 年 10 月 29 日

方法：Web 調査にて

対象：保健師として活動している者

結果：全国回答率は 51%であった。

当協会としては、県庁医務課、和歌山県在宅保健師会、事
業所、保健所、市町村等と連携を図り、回答率 71.1%
(312/439 名) 全国回答率 7 位であったため、その後日本
看護協会の保健師職能委員長ヒヤリングに出席した。

② 22 年度都道府県看護協会保健師職能委員会活動状況調査協力 (8 名)

○保健指導を担う人材育成

今後の対応策として、日本看護協会が開催した「22 年度保健指
導支援事業 保健指導を担う人材育成検討委員会・拡大委員会」
に出席し、今後職能委員会、県庁と協議する。

○三職能委員長情報交換会 (随時)

三職能合同研修会や職能間の連携について協議した。特に三職能
合同研修会の今後の開催地について協議した。

○会員増に関する対策

①「和歌山県看護協会保健師に関するアンケート」調査を実施した。
目的：現在保健師の看護協会加入率が低下しているため、保健師
職能としての組織強化を図るため。

期間：平成 22 年 7 月 25 日～平成 22 年 8 月 16 日

方法：紙ベースにて回答

対象：保健師として活動している者 (保健師の活動基盤に関する
基礎調査対象者)

結果：回収率 89% (390/439 名) と高率であった。詳細な分析
は現在行っているが、年代的には 40 歳代が 36%、経験年
数 0～19 年が 61.5%、職域は市町村が 69.2%、協会の
回答率は 93.6%、現在非会員の入会経験は 79.9%、今
まで入会経験がない方で入会の意思のある方 14.5%、過
去に入会経験があり再加入意思のある方 18.8%であった。

②保健師職能だよりの発行

情報提供や協会加入促進、ネットワークの構築を図るため、平
成 23 年 1 月に第 1 号を発行した。23 年度は 3 号 (8 月、11 月、
3 月) 発行。

③和歌山県看護協会ホームページへの参加

【今後の課題】

- ・「和歌山県看護協会保健師に関するアンケート」の分析結果を基
に、協会活動を多くの保健師に伝え、加入率の増加を図る。
- ・「保健師ミーティング事業」の検討、又は実施。

助 産 師 職 能 委 員 会

委員長 芝 佳 子

【活動目標】

1. 助産師の質の向上をはかり主体的な助産師活動を支援する
2. 県看護協会・三職能・助産師会・地域と連携を推進する

【活動内容】

○回 数：10 回

○職能集会

日時：平成 22 年 9 月 4 日 (土) 10:00～12:30

・助産師職能活動報告

・講演 テーマ「助産師だからできる助産外来」
～人に寄り添う仕事～助産師～

講 師：心友助産院 織田 智子先生

参加人数 44 名

○三職能合同研修会

○助産師職能研修会

日時：平成 22 年 12 月 4 日 (土) 13:30～15:30

・場所：社会保険紀南病院講堂

・講演・実技 「出生直後の蘇生方法」

講 師：小児科医 宮脇 正和先生

○小委員会活動

【今年度の評価及び今後の課題】

- ・要望の多い紀南地方での研修会開催が実現し好評を得た。
- ・思春期講座 (桐蔭付属中・向陽付属中など) 生徒の心に寄り添
うことができ次年度も活動を拡大したい。小学校への「いのち
の事前講座」検討中。
- ・“まちの保健室” 女性のライフサイクルにかかわる助産師をア
ピールしたい。
- ・助産師の質向上のため専門分野の研修を多くし、働きやすい環
境に努力したい。

看 護 師 職 能 委 員 会

委員長 峰 平 一二美

【活動目標】

1. 看護の質向上を目指して、看護専門職としての能力開発を促進する
2. 三職能が連携して職能間の課題を協議し、看護職の職場定着に向
けた活動を実践する
3. 看護協会会員数の増を目指して、三職能委員会の組織強化をはかる

【活動内容】

○回数：8 回、三職能合同ミーティング 1 回

1. 「看護者の倫理綱領」の推進を目指し、「やさしい倫理だより」

第 10 号、11 号、12 号、13 号を発行し、黒潮に掲載した。

2. 職能集会・三職能合同研修会については以下の通り実施した。
平成 22 年 9 月 4 日 (土) プラザホープ 10 時～16 時

1) 看護師職能集会

研修のねらい：新人看護職員卒後研修の事例から現状と課
題を知り、効果的な研修の実践に向けた足
がかりとする。

講演テーマ「看護基礎教育と新人看護職員の育成」

講師：関西医療大学教授 辻 幸代先生

事例発表テーマ「新人看護職員研修の現状と課題」

事例1. 国保野上厚生総合病院

事例2. 紀和病院

事例3. 日本赤十字社 和歌山医療センター

2) 三職能合同研修会

講演：「これで良かったのか、新型インフルエンザ対策 発生時の対応と関係機関との連携」

講師：神戸市立医療センター中央市民病院感染管理室 春田 恒和 先生
＜まとめ＞

看護師職能集会は、参加者 223 名で、職能集会のあり方が良かったが 76%、講演の内容が良かったが 90%であった。その他の意見として、「新人にどのように関われば良いのか良かった」「現場に役立つ」「共に学ぶという指導体制の重要性がわかった」「各施設の現状を聞くなかで、課題がわかった」など多くのコメントが寄せられ、新卒看護職の育成への足がかりとなった。

三職能合同研修会の参加者は 147 名であった。昨年の新型インフルエンザ対応の経験から、平時から準備すべきことや、取り組むべき課題について知ることができた。

3. 専門看護師・認定看護師交流会の開催

平成 23 年 3 月 12 日（土） 10:00～13:00

和歌山県内の専門看護師・認定看護師の連携を強化し、看護の質向上への役割を発揮する機会とした。

4. 「和歌山県看護協会に関する意識調査」の実施 平成 23 年 2 月

看護協会に対する意識調査を、看護師職能委員会の活動に活かすとともに、会員の増に向けての参考資料とする。

【今後の課題】

看護師職能委員会は、看護の質向上と看護専門職としての能力開発を促進することを目指している。今年度から新人看護職の卒後臨床研修が開始されたが、研修を強化するためには、実地指導者や教育担当者など中堅層の育成も重要である。三職能が連携をはかり、それぞれの専門性を発揮し組織力を強化すること、看護職が活き活きと働き続けられる職場環境づくりや看護師の離職を防止する取り組みは今後の課題であると考え。また、「チーム医療における看護師の役割拡大」が検討されている現状で、次年度の職能集会では、病院と地域をつなぐ看護について考える機会としたい。

常任委員会報告

社会経済福祉委員会

委員長 有 北 純

【活動目標】

1. 看護職確保と職場定着の促進に関して、ナースセンターと連携をとり和歌山県内の看護職員の働きやすい環境について考える
2. 看護職の禁煙推進について考える

【活動内容】

○回 数：8 回

1 について

- 1) ナースセンターと連絡をとり、各施設に「短時間正職員制度」導入に向けての実態調査のためにアンケートを行った。
- 2) 回答者：58 施設（68%）
- 3) 短時間正職員制度を利用している人は、32 名。適応条件は未就学児童を養育する人が圧倒的に多かった。配置場所は内科病棟や外来が多かった。
- 4) 導入での効果は、離職率の減少・仕事と生活の両立がしやすくなった・人材の有効活用ができた。
- 5) 夜勤者の確保及びシフト管理が困難かつ複雑になった。今後は夜勤専従看護師がもっと必要になる可能性がある。
- 6) 「看護職の多様な勤務形態」を導入している施設は、16 施設。勤務形態としては、時差出勤・終業が多く、ついで多かったのは、交代制勤務の選択であった。その他としては、夜勤専従などであった。
- 7) 多様な勤務形態の利用者数は、298 名であった。配置場所は、内科病棟と外来が多かった。

- 8) 短時間正職員制度と同じく、夜勤者の確保及びシフト管理が困難かつ複雑になった。今後は夜勤専従看護師がもっと必要になる可能性がある。

- 9) 半数以上の施設が看護師のスキルアップ支援を導入している。しかし、看護師の心因性の疾患も増加しているにもかかわらず、リフレッシュ休暇や介護休暇の支援が半数以下（10%～48%）となっている。また、院内保育所の設置対応はできているが、学童保育設置が 5.2%と最下位であった。

平成 22 年度 衛星通信対応研修

働き続けられる職場づくり

ーいきいき働くためのシフトワークのコツー に参加した。

2. について

黒潮広報への掲載 「看護職の 脱！タバコ宣言」

【今後の課題】

1. について

看護職の職場定着に向けて、ワークライフバランス推進ワークショップへの取り組みを開始する。

2. について

看護協会のたばこ対策を知らない人もあり、たばこの害はわかっているが、禁煙活動に結びつかない現状がある。

教育委員会

委員長 本 田 弥 生

【活動目標】

会員の看護専門職としての知識・技術を深め、看護実践能力の向上を図るため、会員教育の企画・運営を行うことができる

【活動内容】

○回 数：研修 24 コース 35 回 会議 9 回

1. 平成 22 年度教育計画の運営

- ・会員研修プログラム受講者の看護実践能力に応じた学習段階を設定し実施
- ・日本看護協会衛星通信研修会を 3 コース実施
- ・厚生労働省や日本看護協会のガイドラインに基づき新人対象の研

修を実施

2. 平成 23 年度教育計画の立案

- ・各研修会で得たアンケート結果や会議での評価、各地区支部からの要望をもとに立案

【今後の課題】

- ・受講希望者のキャリアアップにつなげるために、学習意欲を尊重した研修場所と研修人数の調整
- ・社会情勢や各種ニーズを捉え、日本看護協会の指針に基づきながらより有意義な看護継続教育を実施
- ・次年度教育計画を年内に企画

広報委員会

委員長 堺 小百合

【活動目標】

和歌山県看護協会の動向・タイムリーな情報・最新の情報の提供
読者参加型の紙面作り

【活動内容】

○回数：8回

1. 和歌山県看護協会会報「黒潮」(112号～115号)の発行
2. 県看護協会の動向を掲載し、各職能委員会からのコーナー、看護協会委員会のコーナー、看護研修センター建設推進委員会の

コーナーを継続した。

3. 「My school」「リレーエッセイ 友達の輪」「私の○○」などのコーナーを継続し、読者参加型の紙面作りに努めた。
4. 認定看護師による最新の情報を会員の皆様に提供した。
5. 前年度に引き続き、和歌山県の医療施設で働く外国人看護師の紹介をした。

【今後の課題】

・会員の皆様に、より興味を持っていただける紙面作り。

準備委員会

委員長 中 萩 規 子

【活動目標】

円滑な総会運営に向けて準備・調整

【活動内容】

○回数：3回

1. 平成22年度和歌山県看護協会総会は平成22年6月12日に開催、無事に総会を終了した
2. ①22年度総会の反省点の検討

②準備委員による役割分担の検討

③事務局との役割の再確認(明確化)

④会場内における誘導案内の人員配置再検討

⑤受付業務の明確化及び再検討

⑥23年度総会の役割分担の決定

【今後の課題】

平成23年度総会に向けて理事、常任委員、特別委員、各委員との協力

推薦委員会

委員長 森 田 み や

【活動目標】

活力ある組織体制作りを目指して、開かれた推薦を行う

【活動内容】

○回数：5回

平成23年度改選役員、委員を下記のとおり推薦いたしました。

第一副会長	古 川 紀 子
理事(書記長)	小 泉 美 穂
理事(助産師職能委員長)	杭ノ瀬 結 子
理事(看護師職能委員長)	東 直 子
地区理事(和歌山)	埴 岡 康恵子
地区理事(海南海草)	上 田 陽 子
地区理事(新宮古座)	山 本 喜久子
幹事	灘 井 京 子
保健師職能委員	山 崎 静 香
	高 田 智 子
	尾 崎 久 美
	喜 田 弘 美
助産師職能委員	長 谷 安 子
	橋 爪 見千代
	中 村 麻 耶
	堰 本 利 絵
看護師職能委員	堀 江 佳代子
	葛 葉 理 香
	米 土 真由美

推薦委員

代議員推薦

予備代議員推薦

中 村 美 香
澤 越 純 子
嶋 田 左知代(保健師)
早 田 美 恵(助産師)
廣 井 啓 子(看護師)
高 田 通 代(保健師職能)
土 井 美智代(助産師職能)
宮 井 千佳代(全区理事 准看護師)
京 極 紀 子(伊都地区 看護師)
埴 岡 康恵子(和歌山地区 看護師)
中 村 優 子(田辺地区 看護師)
橋 本 照 代(保健師職能)
杭ノ瀬 結 子(助産師職能)
道 端 由 美(看護師職能 准看護師)
岩 崎 留 美(伊都地区 看護師)
池 本 義 子(和歌山地区 看護師)
東 直 子(田辺地区 看護師)

【今後の課題】

理事会が行う役員の推薦と推薦委員が行う推薦について密接に連携をとりながら進める。

委員6名

(保健師) 小 川 政 予 寒 川 二 紀
(助産師) 津 本 美 鈴 慈 幸 奈 美
(看護師) 森 田 み や 芝 瀧 ひろみ

業務委員会

委員長 中 野 美 枝

【活動目標】

「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」の通達を受け、和歌山県の医療機関における医療スタッフの役割分担についての実態を調査し、把握する

【活動内容】

○回数：9回

看護業務拡大に伴う看護現場の状況把握に関することへの取り組みとして、チーム医療を推進するうえで、看護師と医療スタッフとの役割分担の実態について、和歌山県看護協会に所属している医療機関40施設を対象にアンケート調査を行った。

今回の調査から、他職種へ委譲できる業務の大半について、看護

職が実施していることがわかった。このことから、施設の規模にもよるが、和歌山県下の施設では、「チーム医療」の推進がまだまだ進んでいないと言える。

「チーム医療」を推進していくために、各職種の専門性を発揮してもらうことは、医療の質の向上と医療安全の確保の観点から非常に有益である。また、業務範囲の拡大に向けて、すでに取り組み始めている施設もあったが、新たな業務を安全かつ円滑に実施できるよう、施設として追加的な教育・研修等について検討を行う必要があると考える。

【今後の課題】

各施設の「チーム医療」推進についての指標としてもらう。

看護研究学会委員会

委員長 岡本 昌子

【活動目標】

和歌山県看護研究学会が、活発で円滑に実施運営できる

【活動内容】

○回 数：12回

平成22年度和歌山県看護研究学会に向けて、木村看護協会長とともに6人の委員で、学会の企画・運営をおこなった。

1) 審議内容

- ① 看護研究学会の目標・テーマの検討
- ② 特別講演の講師選定
- ③ 実践セミナーのLIVE運営の検討
- ④ ポスター（案）の作成
- ⑤ 抄録応募方法及び参加者募集など広報活動の検討
- ⑥ 査読依頼及び選考判定用紙の検討
- ⑦ 抄録の選考とプログラム作成、座長の選出
- ⑧ 学会協力員の依頼と役割内容の検討
- ⑨ 学会当日の運営の検討、運営のしおり作成
- ⑩ 学会会場の設営準備

2) 看護研究学会

平成23年2月26日（土）に「輝く笑顔でよりそう看護ーその人らしいケアをめざしてー」というテーマで、和歌山県民文化会館小

ホールにおいて和歌山県看護研究学会を開催した。参加者は320人。一般演題は、口演10題、示説16題の発表があった。特別講演には、訪問看護師のバイオニア的存在である秋山正子先生をお迎えした。テーマは、「在宅ケアの不思議な力」で、ご講演のなかでNHKのプロフェッショナル番組で放映されたDVDを見ながら出演者のエピソードもお話になった。

患者に寄り添って、患者が輝いていたときを引き出すことによって、命をつなぐことができるという熱いメッセージが、参加者の心に響いたご講演だった。

今年度初の試みである3人の摂食・嚥下障害看護認定看護師による実践セミナーをLIVE放映した。テーマは、「あなたは口腔ケアに自信がありますか？」とした。企業展示2社から口腔ケア関連のサンプルの進呈があり、参加者はサンプルを手を持ちながら、スベチャリストの技を取り入れようと会場に3カ所設置したモニターに見入っていた。また、参加者が舞台上上がって、手ほどきを受ける体験コーナーや質問コーナーも好評であった。

【今後の課題】

看護研究学会が、最新知識の更新と看護技術の交流の場となるように企画運営する方針である。和歌山県全体の看護力の向上を目指して、非協会員への学会参加への働きかけ、広報活動についても検討する必要がある。

特別委員会報告

認定看護管理者制度教育運営委員会

委員長 木村 眞子

【活動目標】

認定看護管理者教育課程（セカンドレベル・ファーストレベル）の実施や改善のための検討を行い、教育課程の充実と推進を図り円滑な運営を実施する

【活動内容】

○回 数：4回

第1回（4月20日）

- ・認定看護管理者教育制度ファーストレベル教育課程受講者の決定
- ・認定看護管理者教育制度セカンドレベル教育課程募集要項の検討

第2回（7月16日）

- ・認定看護管理者教育制度セカンドレベル教育課程受講者の決定
- ・セカンドレベル修了者に対するフォローアップの在り方についての検討
- ・認定看護管理者教育制度ファーストレベル教育課程実施状況の報告

第3回（12月21日）

- ・認定看護管理者教育制度教育課程実施状況の報告
 - ・日本看護協会視察指導結果に関する検討
規定と募集要項の整合について
受講者選考の在り方について
 - ・認定看護管理者教育制度に関する基礎調査（ニーズ調査）について
- 第4回（2月15日）
- ・認定看護管理者教育課程受講者の成績評価、修了認定について
 - ・平成23年度認定看護管理者教育課程募集について

【今後の課題】

- ・受講者の安定的確保と事業充実のためのニーズ調査並びに対策の検討
- ・成果発表の場の検討と環境整備

ファーストレベル教育実行委員会

委員長 埴岡 康恵子

【活動目標】

1. 教育課程に基づいた研修を円滑に実施することができる
2. 各教科のシラバスを作成し学習内容を明確にする
3. 研修内容の企画、運営の評価を行い、次年度に活かすことができる

【活動内容】

○回 数：6回

1. 平成22年度認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程の実施結果

- ・6月22日（開講式）から11月3日まで6科目19教科を16名の講師で実施し、科目履修生1名を含む48名が受講した。その内47名が6科目のレポートを提出し、教育課程を修了した。
- ・研修終了後のアンケートは「講義の内容の理解」「実践の場での活用」「モチベーションの高まり」について5段階評価で3以上

の良好な結果であった。

2. 研修の企画、運営の評価

- ・シラバスを作成することによって、講師が他の科目の内容について確認することができ、また受講者に対しては研修の前に講義の内容を把握することができた。
- ・昨年度の課題であった「論理的思考に基づく文章表現ができる」ために「看護実践に活かす情報の表現方法」の単元を加えた。受講者が事前に提出していた課題を活用した講義で効果があった。受講者の科目レポートは修了証明基準を達成しており、今後も継続していくこととした。
- ・看護管理の基礎的知識を再度学習し、自己の役割を再認識することを目指しフォローアップ研修を行った。「看護管理概説」と「ヘルスケア提供システム論」の2科目を14名が受講し、保健医療福祉制度の再学習ができたことや診療報酬改定後の再認識ができた等の意見があり効果はあった。

【今後の課題】

- ・今年度、日本看護協会の視察により受講資格、修了証明基準の指導を受けた。教育目的である看護専門職として看護管理の知識・技術・態度を習得し、組織的看護サービス提供上の問題を客観的に分析できるように、ひとつ上の立ち位置で受講できる研修を企画することが課題である。また幅広く看護管理者を育成するため

に受講資格の要件を検討していくことも必要である。

- ・フォローアップ研修について、ファーストレベル修了者や組織のニーズに沿った研修を企画することを検討していくことが継続課題である。

セカンドレベル教育実行委員会

委員長 角谷 知恵美

【活動目標】

第一線監督者または中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得し、施設の理念ならびに看護部門の理念との整合性をはかりながら担当部署の看護目標を設定し、その達成をめざして看護管理過程が展開できる能力の大をめざすことをねらいとしたセカンドレベル教育課程を実施し、和歌山県内の看護の質の向上を目指す

【活動内容】

○回数：9回

- 平成22年度認定看護管理者制度セカンドレベル教育課程の実施と評価について
認定看護管理者制度セカンドレベル教育の目的を達成するために、4科目20単元の講義と4科目の演習、看護管理実践計画書作成の180時間で実施した
1) 研修開催まで
・研修開始に向け、プログラムの最終調整、公開講座の決定、

科目演習と看護管理実践計画書支援者への依頼、オリエンテーション内容の検討

- 研修開講中
・研修に集中できるように受講生への支援
- 研修終了後
・受講生から提出された教科目レポートと看護管理実践計画書の審査の結果、受講生25人が合格した
・研修の評価は、受講生25人を対象に講義終了後にアンケート調査を実施した。その結果、各科目において「講義の内容の理解」「今後の実践での活用」「モチベーション」とともに昨年の第1回の開催より低い傾向がみられた。この低い傾向がみられた評価と講師および講義内容に対する意見も参考に、次年度の講義内容および講師の選定を検討した

【今後の課題】

受講生30人の確保

在宅看護推進委員会

委員長 宮川 啓子

【活動目標】

- 訪問看護推進協議会開催に向けて準備する
- 訪問看護の広報活動を行う
- 退院支援における看護連携の強化をはかる
1) 訪問看護師の質向上
2) 病院看護師の在宅看護に関する知識向上

【活動内容】

○回数：7回

- 第3回訪問看護推進協議会開催準備
平成23年3月3日の開催に際し、協議内容の検討、プログラム編成について企画運営を行った。昨年と同様に訪問看護との連携が重要である病院、居宅介護支援事業所、薬剤師等の代表者に参加を依頼するとともに、「訪問看護支援事業」担当の県長寿社会の担当者にも参加を依頼した。今年度の協議内容については、「訪問看護支援事業」について、介護支援専門員協会会長に「介護支援専門員の動きについて」講演を依頼した。
- 訪問看護師や訪問看護師ステーション機能の周知
地域住民への広報活動として「まちの保健室」に参加することを検討していたが、活動するにいたらず、次年度の課題とする。病院や地域の医療施設、介護施設等の方が訪問看護ステーションの情報を収集しやすくすることを目的に、県内の訪問看護ステーションの特色や機能の調査を行い、一覧表を作成した。この一覧表は、今後訪

問看護ステーション連絡協議会と連携し活用していく予定である。

- 医療機関看護師・訪問看護師相互研修の企画運営
平成22年に開催の「医療機関で働く看護職の訪問看護研修」プログラムの企画運営を行った。訪問看護ステーションハーモニー管理者宮川氏に「在宅療養支援に向けて看護師の役割」というテーマでご講演いただいた。その後、事例を提示し、個人作業・グループワークを行った。委員のメンバーも参加し事例検討を行い、在宅の視点からも検討することができ、ディスカッションが深まった。
- 在宅看護（退院支援～訪問看護）に関する教育
平成22年に開催の「医療機関で働く看護職の訪問看護研修」の「在宅療養支援に向けて看護師の役割」の講演で、退院支援についても触れていただき、医療機関に勤務する看護師にとって、「患者は、いつかは退院し、転院あるいは施設、あるいは在宅という療養の場を移行する」という視点、また在宅療養生活のイメージを持つことの重要性や、病棟看護師が行わねばならない退院に向けた「看護」＝「退院支援」における役割を認識できたのではないかと感じた。退院支援に関する研修、事例検討会の企画運営を予定していたが、今年度は実施できず次年度の課題とする。

【今後の課題】

- ・訪問看護師や訪問看護師ステーション機能の周知
- ・在宅看護（退院支援～訪問看護）に関する教育

准看護師委員会

委員長 宮井 千佳代

【活動目標】

看護師2年課程通信制の進学に向けての支援
看護の責任と専門性を発揮するために准看護師としての資質の向上を目指す

【活動内容】

○回数：研修4回 委員会5回

平成17年度に開校された和歌山看護専門学校2年課程通信制は、平成25年3月で終了する。委員会として最後の進学支援を6月に行った。

准看護師研修としては「医療事故防止、感染防止」「看護過程」「看護の動向・准看護師交流会」を行い、参加者には、好評であったが、反省点として、参加数が少なかったことが挙げられる。

【今後の課題】

看護師2年課程通信制の募集停止にともない、准看護師委員会は、本年度で終了となる。今後は、看護師職能委員会が、引き続き進学支援を行うことになる。

看護研修センター建設推進委員会

委員長 中 林 正 良

【活動目標】

看護協会の果たすべき役割やその機能から、今後の将来展望にたった看護研修センター建設推進のため、用地の取得、研修センターの構造、規模及び資金計画が適正に行えるための具体的検討を行う

【活動内容】

○回 数 5回

新しい物件の紹介があったが、築後かなりの年数が経ち、改築費に相当の費用が発生することや駐車場が希望している半数に満たないことで選択の対象とならなかった。
トランスコスモスの使用についてのアンケートは今年度も行った。

全体の集計結果は、概ねよしとする評価を得ている。現段階では選択肢として検討を継続中である。

いずれにしても、新しい看護研修センターは必要であると決定しているので、「新看護研修センターの基本方針(案)」を策定した。また、それに伴う施設概要(案)についても協議を進めており理事会へ報告する予定である。

なお、委員会の報告は昨年度に続きホームページや黒潮への掲載をした。

【今後の課題】

適切な資金計画と会員のコンセンサスを得ることを目指す

「まちの保健室」運営委員会

委員長 石 館 琴 江

【活動目標】

1. 「まちの保健室」の定着化と共に、地域住民の健康に対する意識を高める
2. 生活習慣の改善のきっかけづくりと、その改善に向けてのサポートができる
3. 県民の健康レベルのニーズに応じたコンサルテーション機能が発揮できる
4. 他の職能委員と連携した活動ができる

【活動内容】

○回 数：11回 「まちの保健室」開催：5回

- ・昨年度の引き続き「まちの保健室」の定着化を図ること、また幅広い年齢層の方を対象と出来る「メッサオークワ ガーデンパーク和歌山」で奇数月の第3土曜日に定例開催した。
- ・内容も昨年と同様、各計測（身長、体重、血圧、体脂肪、骨密度）、保健師、栄養士による健康相談を実施した。また、助産師職能からは「妊産婦の保健指導」や「更年期相談」「ハンドマッサージ」も行われた。
- ・広報については、地方紙の「ニュース和歌山」や「リビング和歌山」の無料掲載と開催場所へのポスター掲示、看護協会活動のPRに努めた。
- ・参加人数は各回50～70名程度で、年齢は10代～70代で、幅

広く利用されている。

- ・男女の比率は、女性の利用者が男性より2～3倍多かった。
- ・「まちの保健室」の開催については、広報誌などを見てというリピーターもいたが、たまたま通りがかって、という利用者が半数以上を占めていた。
- ・アンケート回収率については75%以上であった。
- ・利用者からは、健康に対する関心が高まった、気がかりなことが相談できたなどの声が聞かれた。

【今後の課題】

- ・今年度の活動を引き続き行うことで、看護協会活動のPRに努めると共に、地域住民の健康意識を高めること。また生活習慣病の改善のきっかけ作りと、その改善に向けてのサポートができるよう努めていく。
- ・看護協会の知名度を上げ、新たな利用者を獲得するために、活動拠点を拡大していく必要がある。
- ・地域住民の制圧習慣病予防のサポート体制の強化にあたり、今年度同様セカンドキャリア・助産師職能・保健師職能・ボランティア等の協力、連携が必要と考える。

医療安全対策委員会

委員長 中 山 美代子

【活動目標】

1. 医療安全管理者養成研修会の開催
2. 県内医療安全管理者養成研修会修了者の支援およびフォローアップ研修の開催
3. 近畿地区リスクマネジャー交流会の開催

【活動内容】

○回 数：8回

1. 検討内容

医療安全管理者養成研修会、近畿地区リスクマネジャー交流会、県内リスクマネジャー交流会・フォローアップ研修会の運営、および研修後の評価について検討をおこなった。

2. 医療安全管理者養成研修会（全7回修了した方に修了証を発行）

近畿地区リスクマネジャー交流会の申し合わせ（研修時間40時間以上）に準じ、医療現場における安全管理を効果的に行い、医療の質を保証することができる医療安全管理者を養成するねらいで今年度は40時間以上、6時間×7日間（実質42時間）の研修会を開催した。受講者は、52名（修了者49名）であった。研修後のアンケート結果からは、どの研修日も目標はほぼ達成できた、という回答を得ている。

欠席者の対応について検討し、「半日～1日欠席の場合、次年度の同じ内容（近い内容）を受講することを条件に修了証を発行する」と決定した。

3. 近畿地区リスクマネジャー交流会

今年度は和歌山看護協会が担当県として、12月16日に、医療安全対策の充実を図るため、リスクマネジャーの任にある者の相互支援および、近畿6府県看護協会との連携体制の構築をめざすことをねらいとして、午前は交流会、午後は公開講座を開催した。午前の交流会では、参加者は41名で、和歌山県看護協会医療安

全対策委員会前委員長山口太津子氏から「医療安全対策委員会の取り組みについて」の報告、その後の分科会では、医療安全ネットワーク作りなどについて活発な意見交換ができた。午後は、「ADRとメディエーション」をテーマに中京大学法科大学院教授 稲葉一人先生の講演を公開講座として開催した。「ADR」といった新しいテーマであったため、177名の参加があり好評であった。午後からの公開講座の参加費を会員、非会員の記載をしなかったため、同額の2千円としてしまった。

4. 県内医療安全管理者養成研修会修了者の支援およびフォローアップ研修

午前に交流会、午後に演習を含めた研修会として開催した。参加者は41名で、交流会では、他施設の現状や取り組みをすることができよかったという声が多く聞かれた。午後は、RCA分析の演習を含めた研修会であった。1日のほとんどがグループワークであったが、受講生からは楽しく勉強できよかったと好評であった。

【今後の課題】

医療安全推進対策委員会は、特別委員会として3年目となり、医療安全管理者養成研修会や県内リスクマネジャー交流会・フォローアップ研修会の計画と運営は、今後も大きな取組みである。

医療安全管理者養成研修会の参加者が大病院から中小病院、訪問看護ステーションに移行してきている。参加者数の確保、また、参加者を支援していくネットワーク作りが課題である。また、研修修了者のスキルアップをはかるために県内リスクマネジャー交流会・フォローアップ研修会をどうすすめていくかが今後の課題となっている。

近畿地区リスクマネジャー交流会に関しては、今年度で近畿地区担当府県を一巡し、次年度からの開催については未定である。今後も開催されるなら協力をしていく。

【活動目標】

1. 和歌山県看護協会での災害看護における研修を企画・実施する
2. 災害マニュアル・災害支援ナース・ネットワークシステムの普及につとめる

【活動内容】

○回 数：5 回（7/29、9/8、10/18、1/14、2/3）

1. H22 年度都道府県看護協会との合同防災訓練（9/8～9/10）参加
反省・9/9 10 時 30 分日本看護協会からの「災害支援ナース派遣要請」にメール受信確認が手取り、各施設要請が遅れ、そのため日本看護協会への「災害支援ナース候補者リスト」のメール送信が遅れた。（法人会員ネットの掲載を見忘れたため）
・9/9 12 時「災害支援ナース候補者リストを作成し、日本看護協会にメール送信」という項目を、「12 時までに候補者リストを作成し 12 時にメール」と取り違え、リスト作成に慌てた。後に、順次リストを作成し、送信でも良かったのではないかと気づいた。
・日本看護協会から送信された「災害支援ナース派遣シフト表-活動場所」の決定通知のなかから、和歌山県の災害支援ナースを捜し、災害支援施設と救援期間を各施設毎に連絡メールすることに時間がかかった。

2. 災害看護研修の開催

災害看護Ⅰ 11/16・11/17 参加人数 45 人

災害看護Ⅱ 12/6・12/7 参加人数 61 人

災害看護Ⅰ 学習課題	達成できた	35%
	ほぼ達成できた	61%
	ねらいに沿った学習ができた	76%

実践の応用ができそう	77%
災害看護Ⅱ 学習課題	達成できた
	ほぼ達成できた
	ねらいに沿った学習ができた
	実践の応用ができそう
	77%

反省・ロールプレイでグループの持ち時間を設定していたがグループによってはオーバーしたことがあった。制限時間をタイマーセットしていたが声もかけた方が良かった。
・講義の資料をすべて欲しいとの意見があった。講師からはグループで見ると言うことで全員には資料がなかった。受講生から希望があり、コピーして配布した。
・休憩時間が欲しいとの意見があった。
・複数の講師がいる場合のグループ発表ではマイクが3本必要だった。
・新潟小千谷市民病院の DVD を見て、実際にイメージできてよかった。また、具体的なところでどうするかをグループワークで考えることができた。

【今後の課題】

- ・災害マニュアル（災害支援ナースポケットマニュアル・災害時支援体制実施要綱・災害支援ナース関係様式）の早期完成と案内
- ・災害支援ナース登録開始
- ・すでに登録されている災害支援ナースについて（今後の検討）
- ・日本看護協会の災害医療と看護-基礎編（衛星放送・神戸研修センター）の受講（災害看護Ⅰに相当）と今後の研修のあり方

おめでとうございます

第 39 回医療功労賞受賞（読売新聞社主催）

片 山 清 子 様

本物の豊かさ
やさしく包み込まれる
楽園の寝心地

天然羊毛の中から厳選した原料を使ったムートンアリエス40。1cmに5000本以上の毛が密生しているので、その1本1本がスプリングのように無数の点で身体を支えて、包み込むようなやさしい寝心地です。品質にこだわる東洋羽毛が自信を持ってお奨めする一品です。



東洋羽毛関西販売株式会社

大阪営業所
〒564-0062 大阪府吹田市垂水町3-8-12
☎ 0120-88-2104

ホームページアドレス <http://www.toyoumo.co.jp>

和歌山営業所
〒640-8329 和歌山県和歌山市田中町2-18-1-2F
☎ 0120-32-7766

東日本大震災で被災されました方々に
心よりお見舞い申し上げます。

東洋羽毛(株)から、
「コンパクトシュラフ」
(寝袋)を和歌山県看護
協会に寄贈していた
だきました。



地区支部報告

伊都地区支部

支部長 山本 紀美代

活動目標

- ・地区支部活動を充実する
- ・社会のニーズに応じた質の高い看護を提供する
- ・会員の組織強化を図る
- ・関係機関や関係職種との連携をはかる

行 事 名	開催日・場所	参加者数	対象者	行 事 内 容	その他（参加者の反響・主催者の感想）
看護週間行事 「一日まちの保健室」	平成22年5月15日	260名	一 般	健康相談、血圧測定、骨密度測定、心肺蘇生法 及び AED の使用について	・特に問題はなし
支部通常総会 お よ び 研 修 会	平成22年7月3日	77名	会 員	研修会 テーマ「音楽療法の事例からみえる効果と最新情報」 講師 日本音楽療法学会認定音楽療法士 西村仁美先生	・わかりやすい内容でよかった
老人看護月間 講 演 会	平成22年10月23日	55名	会員47名 一般8名	テーマ「急性期病棟における認知症の人のケア」 講師 認知症ケアアドバイザー 五島シズ先生	・わかりやすい内容でよかった ・認知症の家族会の方も参加
看護連盟との 合 同 研 修 会	平成23年1月22日	40名	会 員	講演会 テーマ「変化の時代の看護のあり方」 講師 日本看護連盟幹事長 石田昌宏先生	・社会へのアピールが必要であることや変化 を知り対応する大切さを知った ・難しい内容をわかりやすく話されよかったです
伊都地区支部 看護研修会	平成23年3月5日予定		看護職	講演会 テーマ「感染対策の重要性」 講師 感染管理認定看護 師 田中治美先生	
施設代表者会議	平成23年3月9日予定		会 員		
役 員 会	月1回	5名	会 員	各事業の打ち合わせ	
今後の課題	・関係機関や関係職種との連携をはかる				

那賀地区支部

支部長 並松 睦世

活動目標

地区支部会員の資質の向上と地域住民の健康の維持、向上に努める

行 事 名	開催日・場所	参加者数	対象者	行 事 内 容	その他（参加者の反響・主催者の感想）
1日まちの保健室	平成22年5月15日	104名	一般参加 役員 協力員	血圧、体脂肪、骨密度測定、その他 健康相談、栄養指導、生活指導	
支部役員会	平成22年6月3日	3名	地区支部役員	平成22年度那賀地区支部総会について	
那賀地区支部総会	平成22年6月26日	60名 委任状 278名	地区支部会員	平成22年度 地区支部総会 地区支部研修会 テーマ 「臨床アロマセラピーの理論と実践について」 講師 相原 由花先生	・短い時間でしたが、心地良く感じ、とても リラックスした気分になりました。
支部役員会	平成22年9月16日	3名	地区支部役員	那賀地区支部老人月間研修について	
那賀地区支部 老人月間研修	平成22年10月23日	72名	地区支部会員 那賀地区内 の介護職員	平成22年度地区支部総会 地区支部研修会 テーマ 「看護のこころ、介護のこころ」 講師 坂口 健太郎先生	・患者の想い、家族の想いを理解し、介護す ることが大切と再認識しました。
支部役員会	平成23年2月8日	3名	地区支部役員	1日まちの保健室実施について	
看護連盟紀北支部 看護協会那賀地区支部 合 同 研 修 会	平成23年3月12日	約70名	地区支部会員	地区支部研修会 テーマ 「メディカルコーピングとは、その活用について」 講師 大関 利幸先生	
今後の課題	・会員1人1人が協会の活動に積極的に関わり、質の向上をはかると共に会員の増加をはかる。				

和歌山地区支部

支部長 澤田 康幸

活動目標

- ・保健師、助産師、看護職および一般市民の方に看護協会についての認知を広める。
- ・看護協会員に対し、情報を発信する。

行 事 名	開催日・場所	参加者数	対象者	行 事 内 容	その他（参加者の反響・主催者の感想）
地区支部役員会	平成22年4月22日 済生会和歌山病院	6名	役 員	通常総会、研修会、1日まちの保健室について検討	
1日まちの保健室	平成22年5月15日 わかちか広場	80名 13名	一般参加 役 員・ 協力 員	身長・体重・体脂肪・血圧・骨密度の測定を行い、その結果と説明を行う	
地区支部役員会	平成22年5月27日 済生会和歌山病院	6名	役 員	通常総会・研修会について「まちの保健室」の反省	
地区支部役員会	平成22年6月24日 済生会和歌山病院	8名	役 員	通常総会の準備および打合せ 研修会の準備、会計監査	
通 常 総 会 第1回 研 修 会	平成22年7月3日 ダイワロイネット ホテル(4階プジョール)	180名 12名	会 員 役 員	通常総会 研修会：「災害看護の現状について」 講 師：和歌山赤十字看護専門学校 専任教員 畑下 真守美先生	・ハイチ地震での体験談及び実際の映像や写真を交えての講演でとても分かりやすかったと言う意見が多く、参加者の方からも好評を得ることができました。
地区支部役員会	平成22年7月28日 済生会和歌山病院	6名	役 員	通常総会の反省・老人看護月間行事について看護協会への要望・ナース章のとりまとめ	
地区支部役員会	平成22年8月25日	6名	役 員	老人看護月間行事について	
出前健康チェック	平成22年9月11日 「わかちか広場」	74名 6名 6名	一般市民 役 員 協力 員	身長・体重・体脂肪・血圧・骨密度の測定を行い、その結果と説明を行う	
地区支部役員会	平成22年9月22日	6名	役 員	出前健康チェックの反省会、研修会について	
地区支部役員会	平成22年10月20日	6名	役 員	研修会の最終打ち合わせ	
第2回 研 修 会	平成22年10月30日 ダイワロイネット ホテル(4階プジョール)	60名 5名	会 員 役 員	研修会：「医療におけるスピリチュアルケア」 講 師：住職 大下大圓先生	・前評判はよかったが、台風などが重なり参加者が少なかった。
地区支部役員会	平成22年11月17日	6名	役 員	第2回研修会の評価 次年度の事業計画	
地区支部役員会	平成23年1月19日	8名	役 員	中間会計監査、連盟との合同研修内容検討	
地区支部役員会	平成23年2月16日	6名	役 員	施設代表者会議の検討 通常総会時の研修会の講師検討	
今後の課題	・地区支部の強化発展のために、会員の増加に努めなければならない。 ・施設および個人会員への情報伝達をスムーズに行う工夫が必要である。				

海南・海草地区支部

支部長 楠本 好子

活動目標

1. 地区支部会員の資質の向上と交流を図る
2. 看護協会についての認知度を高める

行 事 名	開催日・場所	参加者数	対象者	行 事 内 容	その他（参加者の反響・主催者の感想）
支 部 役 員 会	平成22年4月21日(水) 国保野上厚生 総 合 病 院	7名	役 員	通常総会・研修会について 1日まちの保健室について	
1日まちの保健室 支 部 役 員 会	平成22年5月15日(土) 13:00～16:00 とれたて広場	121名 16名	一 般 役 員・協力 員	健康相談（生活習慣病） 骨密度、血圧、身長、体脂肪測定	・測定機会の少ない骨密度測定が特に人気があり、骨密度の結果を見て「健康に気をつけよう」等の声も聞かれました。
支 部 役 員 会	平成22年6月16日(水) 国保野上厚生 総 合 病 院	8名	役 員	通常総会・研修会について 1日まちの保健室について	
通 常 総 会	平成22年7月3日(土) 13:30～16:00 国保野上厚生 総 合 病 院	124名 11名	会 員 役 員	1. 平成21年度事業報告・会計報告 2. 平成22年度事業計画及び予算案 3. 平成22年度通常総会代議員報告	
第1回 研 修 会	平成22年7月3日(土) 13:30～16:00 国保野上厚生 総 合 病 院	124名 11名	会 員 役 員	「リフレッシュ体操」 講師：りら創造芸術高等専修学校 山上範子先生	・リフレッシュのノウハウを教えていただき、実際に体を動かし「ストレス発散できた」等の声が多く、リフレッシュできたと思う。
支 部 役 員 会	平成22年7月28日(水) 国保野上厚生 総 合 病 院	9名	役 員	通常総会・研修会について反省 平成22年度事業計画について	
支 部 役 員 会	平成22年9月9日(水) 国保野上厚生 総 合 病 院	9名	役 員	海南健康祭りについて 第2回研修会について	
海南市健康祭り	平成22年10月24日(日) 10:00～16:00 海南市保健 福祉センター	268名 8名	一般参加者 役 員	脳の老化度チェック 豆つかみ、かなひろいテスト	・健康まつりでの「脳の老化度チェック」は毎年おこなっているもので地域にしっかり根ざして来ています。大変好評でした。
支 部 役 員 会	平成22年12月8日(水) 国保野上厚生 総 合 病 院	10名	役 員	海南健康祭りの反省 第2回研修会について	
第2回 研 修 会	平成23年2月5日(土) 13:30～15:30 海南市民会館	152名 9名	会員・非会員 役 員	「逝去時の看護」～死後処置から死後ケアへ～ 榛原総合病院 名波まり子先生	・「自分たちが行っているエンゼルケアについて振り返る機会となった」「今後のエンゼルケア参考になった」等、大好評でした。
今後の課題	1. 魅力ある研修会を企画し、会員・非会員に積極的に参加を呼びかけ、地域の看護の質の向上を目指す。				

有田地区支部

支部長 後藤 智子

活動目標

- ・看護協会の活動を通して、地域住民へ看護の力をアピールする。
- ・広報活動等により新会員を増やすよう働きかける。

行 事 名	開催日・場所	参加者数	対象者	行 事 内 容	その他（参加者の反響・主催者の感想）
1 日まちの保健室	平成22年5月15日(土) 9:30～12:30 オークワ真島店	98名 17名	一般住民 役員及び 協力員	健康チェック(メタボリックシンドロームを中心に) ・血圧測定・体重測定・腹囲測定 ・体脂肪測定・標準体重と肥満度 健康相談、介護相談、子供の記念写真撮影(看護師の衣装で)	・本人だけでなく、御家族の方の健康相談等もあり好評であった。また、看護師の衣装での子供の記念写真撮影も大好評であった。
第1回役員会	同 上 12:30～13:30	7名	役 員	平成22年度地区支部総会について 平成22年度支部役員について 平成22年度第1回研修会について	
平成22年度地区支部総会	平成22年6月26日(土) 13:30～14:00 有田市民会館	69名	会 員	平成21年度事業報告及び会計報告 平成22年度事業計画及び予算案 新役員紹介	
第1回研修会	同 上 14:00～15:30	69名	会員、非会員	講演「子宮頸がんはワクチンで予防する」 講師：和医大産婦人科教室 講師 岩橋 正明 先生	・アンケート結果で、94%の参加者が理解できたとの回答があった。また、「今、話題になっている内容であり、大変勉強になった。」等の意見の記入があり、大変好評であった。
第2回役員会	平成22年8月20日(金) 10:00～11:30 湯浅保健所	9名	役 員	県看護協会理事会報告及び協議事項 第1回研修会の反省 老人看護月間行事について 第2回研修会について	
老人看護月間行事 (ゆあさ愛・あいまつりにて)	平成22年11月7日(日) 10:00～13:00 有田郡民体育館	110名 13名	一般住民 役員及び 協力員	健康チェック ・血圧測定・体重測定・腹囲測定 ・体脂肪測定・骨密度測定 保健指導、健康相談	・内容に、新たに骨密度測定を加えたところ好評で、測定結果に基づき介護予防の指導を行うことができた。
第3回役員会	平成22年12月9日(木) 18:15～19:15	10名	役 員	県看護協会理事会報告 老人看護月間行事の反省 第2回研修会（看護研究発表会）について	
第2回研修会 (看護研究発表会)	平成23年3月12日(土) 13:30～15:30 県立こころの医療センター	92名	会員、非会員	看護研究発表 9題	
第4回役員会	同 上 15:30～16:30	9名	役 員	県看護協会理事会報告 平成23年度事業について ・1日まちの保健室について ・総会及び第1回研修会について	
今後の課題	現行の会員だけでなく、未加入の看護職員にも協会の活動を理解してもらうよう広報活動をするともに、魅力ある研修を企画して積極的に参加を呼びかけ、新入会員・再入会員の増加に努める。				

日高地区支部

支部長 酒本 一二美

活動目標

地域住民の健康をサポートし、地域と密着した活動を行う

行 事 名	開催日・場所	参加者数	対象者	行 事 内 容	その他（参加者の反響・主催者の感想）
一日まちの保健室	平成22年5月15日 (10:00～13:15) オークワロマンティエ御坊店	70名	地域住民	各身体測定・健康相談・保健指導等	
第1回支部役員会	同 上 (13:15～13:30)	6名	支部役員	開催行事の反省及び総会について	
総 会	平成22年7月3日 (13:30～15:30) 国保日高総合病院	65名	看護協会員	1、平成21年度事業報告及び会計報告 2、平成22年度事業計画及び予算案 3、新役員紹介	
平成22年度第1回会員研修会	同 上	68名	看護協会員 非 会 員	講演「笑いと健康」 一ストレスとの関係を中心にー 講師：志水 彰先生 院長 志水 彰先生	・参加者のアンケート結果から約46%の方が「良かった」と言う意見で「笑いの効果、笑いの大切さが解った」等の感想があった。「笑う」ことを期待した参加者には「思っていた内容と異なっていた」等の感想があった。
第2回支部役員会	平成22年7月3日 (16:00～16:30) 国保日高総合病院	8名	支部役員	1、総会及び会員研修の反省 2、看護月間行事について	
第3回支部役員会	平成22年11月1日 (17:15～18:00) 国保日高総合病院	7名	支部役員	1、老人看護月間行事について 2、第2回研修について	
老人看護月間行事	平成22年11月14日 (10:00～14:30) 日高町中央公民館	110名	地域住民	日高町主催の『日高ふれあい祭り』に参加 各種身体測定(血圧・血流・骨密度・体脂肪) 健康相談、保健指導、豆福み、AEDを実施	・支部役員、協力員の協力で実施出来ました。
第4回支部役員会	同 上 (14:30～15:00)	8名	支部役員 協力員	老人看護月間行事の反省及び第2回研修会開催について	
平成22年度第2回会員研修会 看護連盟合同研修会	平成23年2月5日 (13:30～15:30) 国保日高総合病院	52名	看護協会員 看護連盟員 非 会 員	講演「臓器提供の現状について」 一生命(いのち)の尊さー 講師：和歌山県臓器移植コーディネーター 仲井 照和先生	・講演は事例を基に解りやすい内容で参加者全員が「良かった」とアンケートで答える等好評であった。
第5回支部役員会	平成23年2月5日 (15:30～16:00) 国保日高総合病院	8名	支部役員	1、研修会の反省 2、5月開催行事について 3、平成23年度事業について	
今後の課題	1、日高地区支部会員増加に努めなければならない。魅力ある研修を企画し積極的に参加を呼びかける 2、看護協会の活動を地域の方々に知って頂く機会を持つ				

田 辺 地 区 支 部

支部長 高 田 雅 美

活動目標

1. 支部活動を通じて更に会員相互の連携を深める
2. 地域に根ざした活動を深め看護職への理解を深める

行 事 名	開催日・場所	参加者数	対象者	行 事 内 容	その他（参加者の反響・主催者の感想）
1 日まちの保健室	平成 22 年 5 月 15 日 9:00 ~ 12:00 JA紀南 紀菜館	90 名	地域住民	1. 血圧測定 2. 体脂肪測定 3. 健康相談	・気軽に健康相談や測定ができると好評であった。
総 会	平成 22 年 7 月 3 日 13:30 ~ 15:30 南和歌山医療センター	97 名 委任状 216 名	会 員 会 員・ 非 会 員	1. 平成 21 年度事業報告及び決算報告 2. 平成 22 年度事業計画案及び予算案 「看護研究の基礎」 講師 南和歌山医療センター 急性重症患者看護専門看護師 井上 潤先生	・研究の方法や計画書の必要性、文献検討、プレゼンテーションのコツ、質疑応答など看護研究に関し、多岐にわたって講義いただいた。看護研究をまとめるにあたり、今後大いに活用できる内容だった。
老人看護月間行事	平成 22 年 10 月 24 日 9:30 ~ 15:00 白浜町青少年 研修センター	延 219 人	地域住民	1. 血圧測定 2. 体脂肪測定 3. 健康相談	・健康まつり会場での測定で、賑わった。
第 2 回 学 習 会	平成 23 年 1 月 29 日 13:30 ~ 15:30 南和歌山医療センター	100 名	会 員・ 非 会 員	「感情のコントロールとは…私の気持ちとあなたの気持ち」 講師 高野山大学 臨床心理学 助教 森崎雅好先生	・職場や対人サービスにおける円滑なコミュニケーションについて、看護職の特徴なども交えながらの講義であった。大変わかりやすい内容で、好評であった。
看護研究発表会	平成 23 年 3 月 12 日 13:30 ~ 15:30 南和歌山医療センター		会 員・ 非 会 員	発表演題 6 題 講評 南和歌山医療センター 急性重症患者看護専門看護師 井上 潤先生	
施設会員代表者会議	平成 23 年 3 月 15 日 15:30 ~ 17:00 田辺市民総合センター		施設代表者		
支 部 役 員 会	平成 22 年 7 月 3 日 平成 22 年 8 月 30 日 平成 22 年 12 月 7 日 平成 23 年 1 月 29 日 平成 23 年 3 月 12 日		役 員	1. 各種行事の反省及び打ち合わせ 2. 理事会報告等	
今後の課題	会員数の増加と会員相互の連携により地域における看護の質の向上を目指す。				

新 宮 ・ 串 本 地 区 支 部

支部長 浦 上 眞千代

活動目標

1. 会員増に向けての働きかけを行う
2. 会員同士の情報交換を図り互いを刺激しあってより良い看護を目指そう

行 事 名	開催日・場所	参加者数	対象者	行 事 内 容	その他（参加者の反響・主催者の感想）
1 日まちの保健室	平成 22 年 5 月 15 日	238 名 9 名	一般住民 (役 員)	1. 血圧測定 2. 体脂肪測定 3. 呼吸一酸化炭素濃度測定	・「毎年測ってもらっているよ」と話して下さる方もいて定着してきているとの感もあるが、看護の日の行事であることを話しながら行った。
総 会	平成 22 年 6 月 26 日	出席者 35 名 委任状 171 名	会 員	議事はすべて承認された	
第 1 回 研 修 会	平成 22 年 6 月 26 日	出席者 38 名	会 員	講演「日常生活動作の評価 FIM を含めて」 講師 石田 和也先生	・患者の気持ちに寄り添う気持ちを大切に。 ・「毎日何かを学ぶ」事を肝に銘じて行動。 ・自分の行動・言動・そして気持ちを振り返りながら聞くことが出来た。
老人看護月間行事	平成 22 年 11 月 7 日 太 地 町 くじら祭り会場	381 名 10 名	一般住民 会 員	1. 血圧測定 2. 体脂肪測定 3. かなひろい 4. まめつかみ	・幅広い年齢層の方々の測定・相談に対応させて頂き喜んでいただきました。 ・「かなひろい」「まめつかみ」は今年初めてとりいれました。スペースが狭く少数の方のみでしたが楽しみながら行っていました。 ・毎年このイベントに参加させていただいていることもあり定着してきていると感じました。
第 2 回 研 修 会					
第 2 回 地 区 支 部 施 設 代 表 者 会 議	平成 22 年 3 月 24 日 那智勝浦町立温泉病院		施設代表者		
支 部 役 員 会 (那智勝浦町立温泉病院)	平成 21 年 10 月 28 日	5 名	役 員	老人看護月間行事 準備等	
	平成 21 年 11 月 26 日	5 名	役 員	老人看護月間行事 反省会	
	平成 22 年 4 月 30 日	5 名	役 員	1 日まちの保健室行事について	
	平成 22 年 5 月 6 日	4 名	役 員	1 日まちの保健室行事について	
	平成 22 年 5 月 30 日	4 名	役 員	1 日まちの保健室行事について反省会	
	平成 23 年 2 月 24 日	5 名	役 員	・研修会について ・平成 23 年度 地区支部活動計画について	
今後の課題	会員増に向けての働きかけ				

保健師のコーナー

保健師職能委員 西村 尚美

私が就職した頃の和歌山県保健師は、まだ地区分担制で母子保健、精神保健、難病対策、結核などがそれぞれの地区で取り組んでいました。市町村と県も乳幼児健診や成人病検診、へき地診療、健康教育などお互いに協力しあい、その中で多くのことを学ばせてもらったと思っています。

今、和歌山県の保健師は、基本的に業務分担制でほぼ一人一業務を担当しています。一緒に仕事を行う中で自然とお互いの人となりを知り、県と市町村の違いはあるものの、同じ保健師として仕事をしているのだと感じてきましたが、市町村との関係だけでなく同じ保健所においても日ごろの業務は全く異なる状況です。他の職種の方々と働く中で、保健師という資格にとらわれる必要も

なく、お互いが必要とされる働きができればそれでよいのだと思うこともあります。

しかし、仕事に行き詰まり思い悩む時、垣根なく話し合える仲間はいくつになってもほしいものです。保健師同士のコミュニケーションをどう図るのか？ 職業人としては、やはり数少ない業務の接点を大切に、時には共通項を持つように心がける必要もあるのではないのでしょうか。以前のように自然に・・・ではなく、意識しなければ持つことのできない保健師同士のつながり。そのような状況で、今回、職能委員として参加させていただき、新たに知り合うことができた人々との縁を大切にしていきたいと思っています。

助産師のコーナー

助産師職能委員 寺本 裕水

助産師職能委員になり2年の任期が過ぎます。看護協会の動向などを委員長から聞かせて頂くため今まで知り得なかった協会の動きが身近に感じるようになりました。

小委員会活動においては各施設の「院内助産への取り組み状況」を調べたり、委員会活動を看護協会のホームページに掲載するなどを行いました。また委員会活動としては初めての「助産師職能研修会」を企画し田辺市開催にも関わらず遠方（橋本市や新宮市など）から多数の参加をして頂きとても嬉しかったです。また思春期保健指導では和歌山県立向陽中学・桐蔭中学から性教育の依頼があり中学3年生を対象とした「性と生について」をテーマに出前講座をさせて頂きました。この兩者についてはホームページに掲載しますのでご覧になってくだ

さい。

多様化する情勢の中私たち助産師の歩むべき方向性も変化しています。①医療施設の中で固有の専門性を主張する方向→院内助産や助産師外来の開設はこの方向性を目指す一段階。②地域で幅広い母子活動を行う方向→地域の助産所などと連携をとりバックアップ体制の確立が望まれる。③不妊相談・女性のライフサイクルに伴う性と生殖に関する専門的支援を行う方向→助産師の専門性を発揮するために母性専門看護師・認定看護師など特定分野の専門性も求められる。助産師になり18年、多様化する時代に遅れないよう必死についていると思います。委員会活動は私に活力を頂ける場となりました。

看護師のコーナー

看護師職能委員 嶋田 泰典



看護師職能委員となり、今年で2年の任期が終了しました。初めは職能委員会はどうのような活動をしているのかも分からず不安な気持ちで委員会に参加しました。

委員会では他施設の職能委員の方々と今抱えている様々な問題を皆で考え意見を出し合う事で、問題に取り組みました。今までは真剣に考えてこなかった看護協会等の課題について真剣に考える事ができ自分のスキルアップにつながったと実感できました。

看護師職能委員の活動で毎年看護師職能集会有ります。集会では現在皆が興味のある様な内容を取り上げ、多くの方々に参加してもらうように取り組み、毎回講師

の先生方が楽しく分かり安い内容で講義をして下さいました。今後も看護師職能集会には毎回参加していきたいと思っています。

このような活動の中で他の職能委員の方々と交流を深めていく事で、自分の病院の抱えている問題や個人の抱えている悩みなども皆に聞いてもらう事も多く良いアドバイスを頂いたり、とても良い経験が出来ました。

今期で看護師職能は終了しますが看護協会の抱えている課題でナースセンター事業、看護協会委員数の増員など様々な問題について、今後も看護協会員として考えていきたいと思っています。

今回、看護師職能委員の仕事をしてもらえた事が自分の看護の質の向上につながったのではないかと思います。

摂食・嚥下障害看護について

済生会有田病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師

田 中 智 子



『摂食・嚥下障害看護』認定看護師は全国で 233 名おり、和歌山県では 3 名（2011.3 月現在）がいます。

1994 年より摂食機能療法が診療報酬に新設され、嚥下障害という言葉が一般的にも認知されるようになってきています。私達が普段取り組んでいる嚥下訓練は主にお口の機能向上に焦点を当てたものが多く、“ゴックン”という飲み込みを直接改善するものは少ない状況です。

今回ご紹介するのは、嚥下反射・咳反射（気道防御能）を促す成分として以前から報告されていたカプサイシンを使ったトローチやフィルムを経口摂取することで、嚥下反射遅延の改善が期待できるというものです。カプサイシンといえばあの辛いトウガラシを思い浮かべますが、製品化されたトローチやフィルムはローヤルゼリー成分でコーティングされ、味も最後までほのかに甘さが感じられるよう工夫されています。製品開発

会社と大学の共同で、老人福祉施設入所中の 60 ～ 90 歳の高齢者 64 名を対象に調査が行われています。

その結果カプサイシントローチを 1 日 3 回食前に連日補給することで、嚥下反射の有意な改善が認められ、特に嚥下反射が延長した高リスク例でより著明であったと報告されています。現段階では臨床調査に乏しく、医療機関でも一般的な普及には至っておりません。また食品に属するため、保健適応がなく 1 ヶ月 3150 円自己負担となります。さらに嚥下反射が改善された後、どの程度継続使用が必要かという点等についても明らかになっていません。今後の報告に注目が集まりそうです。従来の嚥下訓練に加え、このような新しい製品を適切に活用することで、一人でも多くの方が、お口から食べる楽しみを味わえるといいですね。

手術看護について

日本赤十字社和歌山医療センター 手術看護認定看護師

赤 眞 絵 美

こんにちは、手術看護認定看護師です。手術というと、閉鎖されたイメージがありますが、最近テレビで、手術の現場を放映されることもしばしば見かけられるようになり、だんだん開かれたものになってきました。

また、手術室の看護師は、「診療の補助」の役割が多いと思われがちですが、器械出し看護（清潔介助）、外回り看護（不潔介助）と言葉の定義があるように、特化された専門的な知識を持ち根拠ある看護を実践しています。現在の手術は、患者への手術侵襲が少ないようにと、内視鏡手術やナビゲーション手術が増加しています。高額な機器や、ひとつがうん万円というディスプレイの器械を使用します。また、医療機器はコンピューター操作を行うものも少なくありません。生体情報モニターも患者のあらゆる情報が図や数値として表されます。麻酔方法もひとつの麻酔方法で行うのではなく、手術や患者の個別性を考え組み合わせて

患者に侵襲の少ない麻酔を行います。

手術室看護師は、このような多種多様で複雑な手術の現場で、患者が安心して手術が受けられるように、患者の安全を考え、手術中には訴えられない患者の代弁者となるべく看護を行うことが役割だと考えています。そのために、術前訪問を行い患者の情報を収集し、患者の思いを大切にしながら看護計画を立案しています。術中看護の評価のため、術後訪問にも取り組んでいます。これからも、認定看護師として、新しい知見をいち早くキャッチし、手術看護の質の向上に努めていきたいと考えています。県内で働いている手術室看護師さんの相談にもお応えしていきたいと考えています。もちろん、病棟、外来看護師さんも OK です。リソースとして、どうか活用してください。よろしくお願いします！

セカンドレベル研修を終えて

国保日高総合病院

小松 香世美



平成 22 年度、25 名の皆様と晩夏から初冬の季節を肌で感じながら 4 ヶ月間のセカンドレベル研修を終えることができました。

今、振り返ってみると開校式当日、副看護部長・師長職の中に混じり、私と同じ主任職の立場での参加はわずか 2 名でした。なんと場違いな所に来たのだらうと、参加したことへの後悔と不安でいっぱいになったことを思い出します。そのような中で始まったセカンドレベル研修ですが、日が経過するにつれ、施設の状況も、これまでの経験も立場も違う 25 名が出会い、お互いに情報交換をしながら励まし合い、共に学ぶうちに、後悔は楽しみに、不安は意欲と活動力に変わっていききました。

研修と現場での仕事の両立は大変でしたが、講義を受け、演習での討議を続ける中で、看護管理者としての課題が明確になり、自分のすべきこと、できることが見えてきました。今思うと、自分自身の行動変容が

大きな変化と原動力をもたらし、看護管理者としての自信につながっていることを実感しています。

セカンドレベル研修を終えたこれからが始まりだと思っています。今回の研修で出会った 25 名のネットワークは、これから看護管理者として頑張る際には貴重な財産になることでしょう。今後は、セカンドレベル研修での学びと、25 名の仲間のつながりを活かし、お互いに情報交換を図りながら、専門職として安心で良質な医療の提供ができるよう、そして患者様はもちろん職員からも選ばれる病院であり続けられるよう、責任を果たしていきたいと思います。

4 ヶ月という限られた期間でしたが、たくさんの学びを得ることが出来ました。今年度もセカンドレベル研修が開催されると思います。たくさんの皆様の受講をおすすめします。

災害支援ナースの活動を経験して

紀南病院

田本

遼

3 月 26 日から 4 月 10 日にかけて、日本看護協会の災害支援ナースとして、紀南病院、海南市民病院、橋本市民病院、白浜はまゆう病院から 25 名の看護師が派遣されました。派遣された時期や、場所によりそれぞれの看護師が体験したことには違いがあります。反省点も多くありましたが、学びもありました。活動内容や、感じたことを皆さんに共有していただければ幸いです。

何か役立てばと思い、今回の支援ナースに参加しましたが、宮城県石巻市の避難所に着くまでのバスから見た被災地の状況に正直驚きを隠せませんでした。避難所では組織を作り避難者の方が中心に協力し合い生活を送っているという現状であったため、コミュニケーションをはかり相談し合うことで共に活動することができたと思います。今回当院スタッフや各都道府県の支援ナースの協力など、多くの人に支えられて無事に活動することができたことに感謝します。



産まれたばかりの赤ちゃん（男の子）と。向かって左は赤ちゃんのお母さん（Oさん）と、右が吉倉です。かわいい赤ちゃんを抱っこさせてもらい、大変幸せでした。手つきが少しぎこちないですが…。

リレーエッセイ

友達の

輪

Vol.36

南和歌山医療センター

吉倉 有希乃

はじめまして、南和歌山医療センターの吉倉です。私は平成 21 年に感染管理認定看護師の資格を取得し、現在は専従で感染管理を行っています。新卒時からずっと手術室勤務だったので今の状況はなかなか厳しいと感じることも多いですが、周囲の人に助けられ日々感謝しながら仕事をさせて頂いています。これといった趣味や特技はありませんが、旅の移動中に温かい紅茶を飲みつつ本を読む時間が一番リラックスできます。

次回は国立病院機構南和歌山医療センター 井上 潤さんをご紹介します。



本校は平成12年4月に看護師3年課程として開設し、今年12期生を新入生に迎えました。設置主体は社団法人和歌山市医師会で、教育理念は地域の保健・医療・福祉に貢献できる看護実践者の育成です。和歌山市の中心の閑静な住宅地にあり交通の便も良く、落ち着いた環境で学習することができます。各学年40名で、社会人を経験して入学する学生も増え、年齢層も幅広くなってきました。

入学後、新入生は5月に研修旅行に行きます。毎年学生が自分たちで行き先や1日のスケジュールを話し合い、楽しめる企画を考えます。昨年はバーベキューをしました。グループでメニューを決め、買い

出しをし食事を楽しみました。クラスの親睦を深めるとともに、仲間意識を高め3年間このクラスで頑張るという団結力を固めます。

学校行事の中で学校祭と体育祭は、2年生が中心になり、1年生と協力しながら企画・運営します。5月の体育祭では、学年対抗でバレーやバスケットなどの競技をします。教員と学生が一緒になって日頃の運動不足を解消します。秋の学校祭では、地域の方によく来ていただけるような催しを考え、昨年は健康フェアや一次救命処置を行いました。また恒例の模擬店やバザーも喜んで頂いています。冬には2年生で学習する災害看護に繋がるようにと1年次に消防出初式に参加し、防災に対する意識を高めます。

また医師会の成人病センターの臨床検査部門でも見学実習があります。微生物を実際に顕微鏡で見ることができ、検体の取り扱いや検査手順を見学することで検査結果のもつ意味の理解を深めます。

2年生の1月からは臨地実習で患者さんと関わり、自己の看護観を養うとともに看護師になるという意味を固めていきます。

そして全実習が終了する3年生の12月から、国家試験に向けての勉強に専念することになります。

学生は、忙しい学校生活の中でも看護師になるという大きい目標に向かって日々充実した生活を送っています。



在校生の声

私達は、看護師を目指して、和歌山市医師会看護専門学校に入学しました。入学当初は、テストもあまりなく、勉強もそんなに忙しくありませんでした。しかし最近はテストも多くなり、勉強で苦労している人も多くなりました。しかし、同じ夢を目指す者の集まりなので、互いに切磋琢磨しあいモチベーションを維持することができています。2年後に受ける国家試験に、今いる全員で合格したいと思います。

1学年 加藤 晃徳・川口 千尋

私の

わたしの「毎日」

今、私は看護の喜びを感じ、精いっぱい働いています。医療社会における看護の役割りが、年々厳しい環境にある中、私たち熟練者が後輩のために何ができるか、日々悪戦苦闘しています。

高度教育を受け臨床現場に立った時、対象者の求めるニーズに応えるために、臨床看護師は何をしなければいけないのか？高齢化が進み、医療現場はやりがいを見つけるための職場環境として求めるこ

とへの大きなギャップがあり、若者はその現実との狭間に立ち自分のやりがいを見失うことになってしまう。この現実を、私たちが後輩のために看護の素晴らしさを紐解く役割りを担っている。

医療現場は『楽』ではありません、看護はどんな環境でもやりがいを持てる業です。生涯の業として、誇りを持ち共に力を合わせましょう。

中江病院

亀田 美恵子

やさしい倫理だより

りん り 第13号



●発行責任者／看護師職能委員長 峰平一二美 ●／看護師職能委員会

こんにちは！倫理綱領 条文XIIIです！

看護師は、社会の人々の信頼を得るように、個人としての品行を常に高く維持する

看護に対する信頼は、専門的な知識や技術以外にもあります。大切なことは看護師1人ひとりの誠実さ、礼節、品性、清潔さ、謙虚さなどにささえられた行動によるところが大きいです。

医療現場でも社会人としてのマナーを身につけることが大切です。

★ 患者さんに好感をもたれる身だしなみ …… 控えめ、清潔感、健康的

★ 信頼関係を築く挨拶 …… ア：明るく イ：いつも サ：先に ツ：続ける

マナーの基本を身につけることが、個人としての品格を常に高く維持することにもつながります

りん子の
つぶやき



患者さんから信頼される身だしなみ、挨拶、言葉遣い、表情を心がけましょう。

この意味
知ってる？

品行方正

読み方は“ひんこうほうせい”

「品行方正」は、人としての行動が正しく立派なことを意味する。

第6回

プレゼント！

「図書券」

1,000円分を

10名様に！

はがきに ①希望の商品名 ②氏名 ③会員番号 ④郵便番号・住所⑤電話番号 ⑥勤務先名 ⑦本紙へのご意見・ご要望を明記の上、6月20日(月)までにお送り下さい。(消印有効・1人1通のみ)
当選者の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

宛先

〒641-0036 和歌山市西浜 1014-27 和歌山県看護協会 「5月号プレゼント」係

応募者の
声

- さまざまな情報を提供していただきありがとうございます。個人会員なので情報入力が遅れがちなのでとても助かっています。
- 和歌山の医療施設で働く外国人看護師の現状の記事に関心を持ち読みました。私たちの病院でも、昨年度よりインドネシアの方2名が勉強しながら働いています。言葉が通じない点多々ありますが、餅投げなどにも参加して楽しく過ごしています。看護師国家試験に合格できるように応援していきます。
- いつも楽しく見えています。色々な看護職の声を聞かせてもらい、元氣や勇気をもらっています。

和歌山県看護協会の動き

平成 23 年度 第 1 回理事会

開催日時 平成 23 年 4 月 27 日 15:00 ~ 17:00

I 審議事項

1. 平成 22 年度事業実施（案）について
2. 平成 22 年度一般会計決算（案）と監査報告について
3. 平成 24 年度日本看護協会代議員及び予備代議員選出について
4. 新看護研修センター施設建設への取り組みについて
5. 各委員会諮問事項と各委員会の運営について
6. 通常総会提案事項について
7. 23 年度和歌山県看護協会通常総会当日の役割について
8. その他

II 報告事項

1. 事務長交代について
2. 平成 23 年度県委託事業について
3. 東日本大震災に関する対応について
4. 看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップについて
5. その他
 - 1) 新入会員オリエンテーションについて
 - 2) 関連会議参加報告
 - 3) 看護政策について
 - 4) その他

平成 23 年度 第 2 回看護研修センター 推進委員会の報告について

- ★平成 22 年度 第 6 回委員会【2 月 28 日（月）】
新看護研修センターの基本方針（案）、施設概要（案）について検討を行い、理事会に報告する。
- ★平成 23 年度 第 1 回委員会【4 月 25 日（月）】
幅広く検討してまいりましたが、委員会として「トランスコスモス」を、新看護研修センターとして決定をし、理事会へ報告をする。
- ★臨時委員会【5 月 13 日（金）】
上記のことを踏まえ、定期総会にむけた協議を行う。

● 寄 付

片 山 清 子 様より
（第 39 回医療功労賞受賞者）
看護研修センター建設のための
ご厚志 金 3 万円を
いただきました。

潜在看護職研修

平成 23 年 1 月 25 日（火）潜在看護職復職支援研修の最終日は ①「実務研修に参加して感じたこと」②「実務研修を終えて再就業への意欲について」についてのテーマでグループワークを行いました。「再就職は不安が大きくなかなか決心ができなかったことですが、今回のように支援研修の機会があることで、気持ちの準備ときっかけを作ることができました。」等の声があり、再就業への意欲を燃やす意見が多く出ました。

医療安全ねっとわーく

医療安全管理者養成研修を平成 17 年度から開始して、22 年度で 307 名の医療安全管理者が誕生しています。

毎年、フォローアップ研修を開催して、実践報告をして頂いていますが、参加施設が限られており、皆様日々どのようにご活躍されているか、大変興味があると思います。そこで、『黒潮』でリスクマネジャー（医療安全管理者）の皆様の取り組みをご紹介したいと思います。

同じ問題に悩んでいる施設や、これから取り組もうとしている施設など情報交換ができるように、施設のアドレスも公開していければと思っています。

リスクマネジャーの皆様、医療安全対策推進委員会までぜひ実践報告をおよせください。お待ちしております。

中堅看護職実務研修 救急看護



（2 月 7 日～2 月 9 日 3 日間 受講生 56 名）

2 月 8 日、和歌山県立医科大学高度医療人育成センターにて BLS、シミュレーショントレーニングの実習を行いました。急変はいつ起こるか予測できないので、患者さんの救命のために日頃のトレーニングが重要であると再認識しました。

市ヶ谷のマザー・テレサ来る



平成 22 年 2 月 26 日和歌山県民文化会館で開催された和歌山県看護研究学会の特別講演に、訪問看護師のバイオニア的存在である秋山正子先生をお迎えいたしました。ご講演の中で「誰もが輝いていた時がある。患者に寄り添って、その輝いていた時を引き出すことが命をつなぐことにつながります。」という先生からのメッセージが心に響きます。

医療従事者のワーク・ライフ・バランス研修



（受講者 68 名）

平成 23 年度和歌山県看護協会は、日本看護協会と協働して病院等の施設を対象とした「看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ」の開催が決定しています。それに先立ち 3 月 5 日、日本看護協会 常任理事 小川忍様を講師にお招きし、研修会を開催しました。受講者からは、「ワーク・ライフ・バランスの基礎がよくわかった。」という声が寄せられました。ワークショップ参加施設とともにワーク・ライフ・バランス推進に取り組んでいきます。